

PRESS RELEASE

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」 全プログラムラインアップ発表のご案内



舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」

Performing Arts Festival: Autumn Meteorite 2025 Tokyo

2025年10月1日（水）～11月3日（月・祝）

東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE〈池袋西口公園野外劇場〉ほか

<https://autumnmeteorite.jp>

東京舞台芸術祭実行委員会は、2025年10月1日（水）から11月3日（月・祝）にかけて池袋の東京芸術劇場を中心に開催する、舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」の全プログラムラインアップを発表いたします。

報道関係の方からのお問い合わせ先

■事業に関するお問い合わせ

東京舞台芸術祭実行委員会事務局

☎ 03-6812-1663（土日祝及び東京芸術劇場休館日を除く11:00～17:00）

■広報に関するお問い合わせ

東京舞台芸術祭実行委員会事務局 舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」 広報担当 松本・藤崎

☎ 03-6812-1638（土日祝及び東京芸術劇場休館日を除く11:00～17:00）

✉ press@autumnmeteorite.jp

目次

- P3 舞台芸術祭「秋の隕石」とは
2025年度開催によせて
開催概要
- P4 ディレクターズ・メッセージ「隕石み」
- P7 舞台芸術祭「秋の隕石」プログラム構成
- P8 スケジュール

<プログラム紹介>

上演プログラム

- P9 1 オープニングプログラム『現実の別の姿／別の現実の姿』
- P11 2 岡田利規 ダンス作品兼演劇作品『ダンスの審査員のダンス』
- P14 3 芸劇オータムセレクション 佐々木蔵之介ひとり芝居『ヨナ-Jonah』
- P16 4 Shakespeare's Wild Sisters Group × 庭劇団ベニノ『誠實浴池 せいじつよくじょう』
- P19 5 フェイ・ドリスコル『Weathering』
- P21 6 芸劇オータムセレクション『Mary Said What She Said』
- P23 7 ハンダ・ゴテ・リサーチ&ディベロップメント『第三の手』
- P25 8 フォースド・エンタテインメント『Signal to Noise』
- P27 9 ユーバランス
- P29 10 うたうははごころ
『劇場版☆歌え！踊れ！育て！ははごころの庭～子供服は輪廻です～』
- P31 11 シャヴィエ・ボベス『やがて忘れてしまうもの』
- P33 12 [関田育子]『under take』
- P35 13 芸劇オータムセレクション ダミアン・ジャレ × 名和晃平『Planet[wanderer]』
- P37 14 花形 慎『エルゴノミクス胚・プロトセル』

上演じゃないプログラム

- P39 15 アリエル・ドロン「オブジェクトシアター ワークショップ／プロフェッショナル編」
- 16 アリエル・ドロン「オブジェクトシアター ワークショップ／実験体験編」
- P41 17 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] × 舞台芸術祭「秋の隕石」
Future Ideations Camp Vol.7
Super Sober Shamanism：同期・共在・模倣を演劇とテクノロジーの両岸から考える
- P44 18 次はどこ？みて、はなすレジデンシー
- 19 海外プレゼンター招聘
- 20 コンセプトブック「文脈たちの宴」
- P45 21 山口遥子 レクチャー『現代オブジェクトシアターへのクイックガイド』

ウェルカム体制（＝来場サポートのこと）

- P46 22 ウェルカムぎんが
- P47 23 アクセシビリティ・鑑賞サポート
- 24 池袋まち歩きツアー

- P48 会場（アクセス）
- P49 チケット情報
- P52 クリエイティブ・ディレクション
- P53 クレジット

舞台芸術祭「秋の隕石」とは

豊島区池袋の東京芸術劇場を中心に開催される舞台芸術祭「秋の隕石」。演劇作家・演出家・小説家・チエルフイチュ主宰として、国内・海外で活躍する岡田利規が、アーティストック・ディレクターを務めます。「新たな芸術の創造」「海外発信」「人材育成」を主要なミッションとし、国内外の多様な舞台芸術作品の上演の他、世界で活躍できる舞台芸術人材育成の取組み等を実施します。岡田利規は、その独特なテキストと身体の関係性による独自の方法論を確立し、現代社会への鋭い眼差しと併せて国内外で高く評価されています。同芸術祭も、先進性や独自性、創造性そして国際性を備えたものへと発展し、より広く深く世界とつながってまいります。

2025年度開催によせて

岡田利規アーティストック・ディレクターのもと初の開催となる今回、国内・海外の多様な舞台芸術作品14演目による「上演プログラム」、レクチャーやワークショップなどの「上演じゃないプログラム」、その両方を支える「ウェルカム体制（＝来場サポートのこと）」の3つを展開します。

2025年は、国内のアーティストの発掘や新作委嘱を手がけるほか、若手舞台関係者の国際交流を促進する企画を実施。海外のフェスティバル関係者などプレゼンターの招聘を行うことで世界の様々なフェスティバルや劇場、アーティストなどと接続し、将来の協働の可能性を探索します。

また、多様なプログラムを通じ、今、ここ、にある日本と世界の舞台芸術表現が、より身近なもの、自分と直接接続し腑に落ちるものとして捉えられるような、さまざまな現実の姿に気づき、新たな視点でこの世界を捉え直すことができるような機会を創り出します。

岡田が率いる新しいチームで、あらゆる人々に対して広く開かれた国際的な舞台芸術祭となることをめざします。

開催概要

名称：舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」

英語名称：Performing Arts Festival: Autumn Meteorite 2025 Tokyo

会期：2025年10月1日（水）～11月3日（月・祝）

会場：東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE〈池袋西口公園野外劇場〉ほか

主催：東京舞台芸術祭実行委員会〔東京都、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）〕

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（国際芸術交流）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協賛：アサヒグループジャパン株式会社

メディアパートナー：Tokyo Art Beat

協力：豊島区、西武鉄道株式会社、東武鉄道株式会社

事業数：上演プログラム14演目、上演じゃないプログラム7事業、ウェルカム体制（＝来場サポートのこと）3事業



アサヒグループジャパン株式会社



「隕石み」

異物感を備えたものは、それ特有の鼓舞する力を帯びていて、それは微かにであるとしても、確実に放射され、この世界に、この宇宙に、影響を及ぼす。そういうものとしての、隕石のイメージ。

そう、イメージとしてだけでも、隕石はあなたやわたしの生活・世界の現在・東京という都市・地球という惑星に、つまりこの宇宙・この現実、作用する。だからわたしはこの舞台芸術祭を「秋の隕石」と名づけた。

「秋の隕石2025東京」は、上演プログラム、上演じゃないプログラム、ウェルカム体制（＝来場サポートのこと）、の3つからなる。上演じゃないプログラムとは、ワークショップ、トークイベントなどを指す。ウェルカム体制は、鑑賞サポートやアクセシビリティの取り組みのことであり、会期中人々が集い憩うためのスペースのことである。

上演プログラム、上演じゃないプログラム、いずれも無論隕石であるが、ウェルカム体制もまた非常に大きく隕石である。「秋の隕石」という舞台芸術祭が隕石のイメージを投影させたいのは、そこで紹介されるプログラムに対してだけではない。来訪者の隕石。観客の隕石。舞台芸術という表現形式の刺さる宛先の層や文脈の現状を、変動させ、広げたい。そのために「秋の隕石」は、ウェルカム体制を整備する。ウェルカムみもまた隕石みである。

「秋の隕石2025東京」は2025年10月1日、『現実の別の姿／別の現実の姿』というタイトルの野外演目で幕を開ける。このフレーズはもともと、この舞台芸術祭そのものに付される副題として考案されたものだった。つまりこのパフォーマンスはわたしたち＝舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」、が芸術を通して現実に対して何を示したいと考えているかを端的に示す名を冠している。そして、名は体を表すだろう。

ダンスの審査会に臨むダンスの審査員たちの様子を描く『ダンスの審査員のダンス』は、所有というテーマを扱う。この世界に幅を利かせるこの概念、わたしたちが主に自らを守るために適用する、しかしそのことがこの世界の窮屈化への加担ともなっていることもまた否定できないこの概念に、振り付けられ、ダンスさせられる戯れであるような、ダンス作品兼演劇作品となる。

わたしたち生者はときどき死者を想う。では、死者は生者を想うのか？想うとしたら、どのように？『誠實浴池 せいじつよくじょう』はそのひとつの物語（ナラティブ）である。台湾の王嘉明と日本のタニノクロウが共同で戯曲の執筆と演出にあたって編み出した、せつなさやバカバカしさが同居する、奇妙で胸に残るナラティブ。廃墟となった大衆浴場で夜毎、戦死した男たちが女たちを想って繰り広げる〈プレイ〉。この演劇（プレイ）に立ち会うことは、戦争という愚行への感情を風変わりな仕方で噛み締める経験となるだろう。

人工知能（AI）などのデジタル技術に、ファクト／フェイクの軸を揺らがせられ、リアリティを正しく判別できるという自信をいまやすっかり喪失して生きていくしかないわたしたちの前に、英国を拠点とする演劇カンパニー、フォースド・エンタテインメントの『Signal to Noise』は、ドタバタ的かつおそましい、生身の身体によって演じられるディープフェイクとして現れる。アナログなリアリティの〈聖域〉であってよいはずの舞台芸術の場にあることか、デジタル的不気味さの感覚が跋扈する。



生存のための自然条件・政治条件が惑星レベルで揺らぐ現実のなかを生きるわたしたちにとって、フェイ・ドリスコルの『Weathering』の上演は、わたしたち自身の運命を象徴的に、暗喩的に、かつ強烈に具体的に出現させる。四方を観客席に囲まれたアクティングエリアに置かれた直方体の上で身を寄せ合い静止姿勢をとる、大洋に浮かぶ筏に乗り合わせた漂流者たちのような10人のパフォーマーの微細で絶え間ない豊かな変化の様相を味わううち、いつしかこの『Weathering』は、嵐そのものとなって襲いかかってくる。

舞台芸術祭「秋の隕石」は、舞台芸術の機能する文脈を変動させ、拡張させることを企む。パフォーミング・アーツとデジタル・アーツのマッチング・アップ・イベントといえる「シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] × 舞台芸術祭「秋の隕石」Future Ideations Camp Vol.7 | Super Sober Shamanism：同期・共在・模倣を演劇とテクノロジーの両岸から考える」も、そのための野心的一手である。舞台芸術はデジタル・テクノロジーに潜在的恐怖心を抱いているかもしれない。両者の価値観や美学の懸隔も大きいかもしれない。しかしだからこそ、この出会いでついに顕在化する舞台芸術のポテンシャルがあるのではないか。そのときの到来を舞台芸術は数千年前から待っているのではないか。

「秋の隕石2025東京」は山口遥子氏にキュレーションを依頼し、オブジェクトシアターの取り組みを紹介する。上演プログラムとして、ハンダ・ゴテ・リサーチ&ディベロップメント『第三の手』とシャヴィエ・ボベス『やがて忘れてしまうもの』が、上演じゃないプログラムとして、アリエル・ドロンのワークショップが行われる。現代の舞台芸術はあまりにもヒューマンシアター中心主義的である。ヒトが演じることでついてまわるいろいろな限界や桎梏（しっこく）に、舞台芸術はしばられなくてよい。ヒトではなくてモノ＝オブジェクトが演じる演劇。オブジェクトシアターは大事である。ものすごく大事であるが、そのことはまだわかられていない。あるいは、かつてはもっとわかられていたそのことがいまはわからなくなってしまうのかもしれない。オブジェクトシアターこそが能く接続しうる文脈を、「秋の隕石」は隕石として招きたいと欲したのである。

世界、心、そのほかありとあらゆるレイヤーにおいて、見える壁、見えない壁が建造されまくっていて、〈ジャンルの壁〉もそのひとつである。だから舞台芸術の催しである「秋の隕石2025東京」は楽しい音楽イベント『ユーバランス』をプログラムのひとつとした。東京芸術劇場内の複数箇所音楽が・音楽でないなにかが、同時多発する。パフォーマンスどうし、音どうしが混じり合う汽水域が現れる2日間となる。

この社会はいとも変わらず女性たち、とりわけ育児中の女性たちを、あれやこれやの不条理に直面させている。ママやママじゃない女優たちのサークルであるうたうははごころは、ママさんコーラス演劇、というとんでもなくユニークな形式の演劇で、それらと立ち向かう。うたうははごころの演劇は、育児中のママにだけ刺さるといったようなものではない。そうした文脈に限定されないしかたで、この社会に生きるわたしたち誰しものための演劇として、つまりいち舞台芸術として、「秋の隕石2025東京」はその新作、『劇場版☆歌え！踊れ！育て！ははごころの庭～子供服は輪廻です～』を紹介する。

花形槇は、人間でないものへの変態を試みる。自らの身体を身体としてイメージすることから離れ、装着したVRゴーグルのなかにひろがる、身体のイメージがモノのイメージと結ばれる世界と接続し、そこで、モノになることを希って姿勢を変化させていく。人間であることからの離脱への不穏な、しかし切実な欲望に根ざしているようにもおもわれるこの『エルゴノミクス胚』という試みの、来年度以降に予定している発表に向けた公開実験が「秋の隕石2025東京」では行われる。

わたしたちの生の状況を確認するために、それがまとうディテール・えもいわれぬ空気の質感などをとらえ直す経験。[関田育子]の演劇がもたらすのは、それである。演劇を構成する諸要素を等価に扱う創作姿勢。簡潔な描線による上質なマンガ表現にも似たきわめてユニークな質感の演技の、無機質な空間への絶妙な配置。かれらの上演は、その記録写真には決して映ることのないだろう情感に溢れる。笑いにも溢れる。舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」は[関田育子]に新作を委嘱した。今回の新作『under take』は、会場である劇場空間の、ふだんは隠されているある機構部分を露わにする、というアイデアを軸に創作される。

隕石は、惑星外からくるとは限らない。この舞台芸術祭に対して与えたい、隕石のほかのもうひとつの隠された比喩的イメージが、実はある。それは、暗渠である。暗渠もまた隕石である。

隕石も暗渠も、文脈に依存している。文脈によって隕石・暗渠となる。こちらにやってきてくれるのでなければ隕石は、単に石、大きければ岩、と呼ばれるだけだろう。そうとさえ呼ばれないかもしれない。飛んでこない隕石はなんと呼ばれるべきなのだろう？「秋の隕石」は飛んでこない隕石をその文脈のひとつに招き入れることができるのか？さまざまな隕石や暗渠を招いて構成される、それ自体がひとつの隕石たろうとする舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」は、隕石、と名乗る以上、この大きな課題意識を常に射程に入れていたい。隕石であるあなたをウェルカムできる体制でありたいからである。

舞台芸術祭「秋の隕石」 アーティスティック・ディレクター

岡田利規 Toshiki Okada

プロフィール

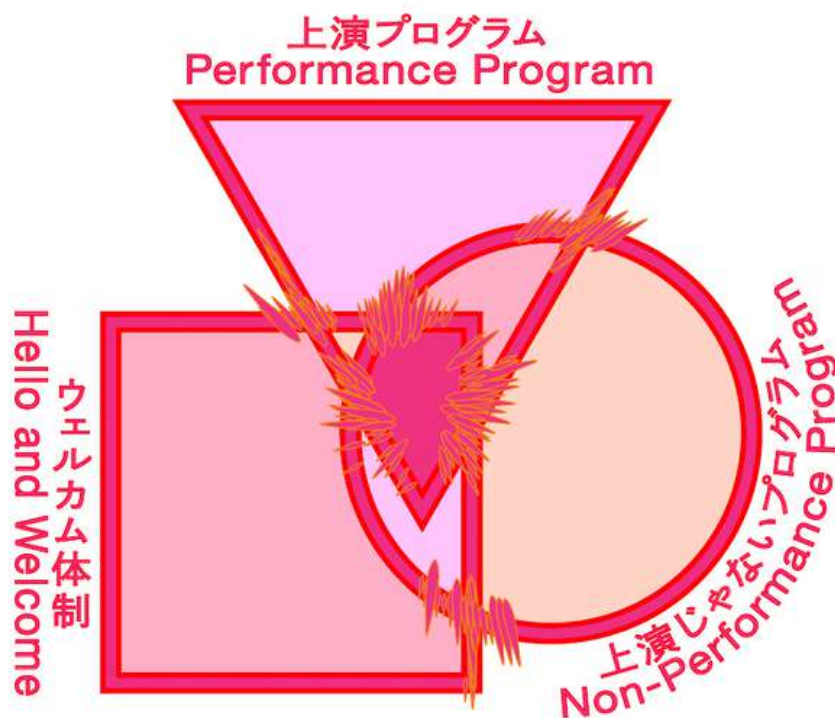
演劇作家、小説家、演劇カンパニー「チェルフィッチュ」主宰。2005年『三月の5日間』で第49回岸田國土戯曲賞受賞。同作での2007年クスステン・フェスティバル・デザール（ブリュッセル）参加以降、国内外の90都市以上で新作を旺盛に上演し続けている。2015年日韓キャストによる『God Bless Baseball』、2018年ウティット・ヘーナム原作・タイキャストによる『ブラータナー：憑依のポートレート』（第27回読売演劇大賞・選考委員特別賞受賞）、2023年ウィーン芸術週間委嘱作品『リビングルームのメタモルフォーシス』など、国際共同制作作品も多数。2016年以降、ドイツ語圏公立劇場のレパートリー作品の作・演出も継続的に務め、2020年『掃除機』及び2022年『ドーナ（ッ）ツ』でベルリン演劇祭に選出。

2022年、『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』（第72回読売文学賞・戯曲・シナリオ賞及び第25回鶴屋南北賞受賞）および歌劇『夕鶴』の演出に対して、第29回読売演劇大賞 優秀演出家賞を受賞。小説家としては、2007年に『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を刊行、第2回大江健三郎賞受賞。2022年に『プロッコリー・レボリューション』で第35回三島由紀夫賞および第64回熊日文学賞を受賞。



©Kikuko Usuyama

舞台芸術祭「秋の隕石」プログラム構成



舞台芸術祭「秋の隕石」は、3つのカテゴリーからできています。

ダンスや演劇、パフォーマンス・アート作品などの「上演プログラム」。

ワークショップやトークなどの「上演じゃないプログラム」。

そして「秋の隕石」をどなたにでも楽しんでもらうための「ウェルカム体制（＝来場サポートのこと）」です。これは、各種のアクセシビリティの充実にとどまりません。演目によっては全ての回をリラックス・パフォーマンス（※）とするなどして、「秋の隕石」は舞台芸術を上演する姿勢のあり方自体を問い直します。

※リラックス・パフォーマンスとは：

小さなお子さま、発達障害の方、音や光の刺激に敏感な方、静かに大人しく座っていることを強制されるような空気が苦手な方、などにも安心して観劇を楽しんでいただけるような舞台芸術の上演のやり方です。上演中の客席を完全に暗くしない、音響・照明の効果をやわらかいものにする、などの演出上の配慮がなされています。声を出したり体を動かしたりしながら観劇することや上演途中で入退場することを咎める雰囲気、リラックス・パフォーマンスの上演は持ちません。

スケジュール

	プログラム名	カテゴリー	日程	会場
1	オープニングプログラム 『現実の別の姿／別の現実の姿』	上演プログラム	10月1日（水） 17:30～	GLOBAL RING THEATRE 〈池袋西口公園野外劇場〉
2	岡田利規 ダンス作品兼演劇作品 『ダンスの審査員のダンス』	上演プログラム	10月1日（水） ～10月5日（日）	東京芸術劇場 シアターイースト
3	芸劇オータムセレクション 佐々木蔵之介ひとり芝居『ヨナ-Jonah』	上演プログラム	10月2日（木） ～10月13日（月・祝） *10月1日（水）プレビュー公演	東京芸術劇場 シアターウエスト
4	Shakespeare's Wild Sisters Group × 庭劇団ベニノ 『誠實浴池 せいじつよくじょう』	上演プログラム	10月3日（金） ～10月5日（日）	東京芸術劇場 プレイハウス
5	フェイ・ドリスコル 『Weathering』	上演プログラム	10月10日（金） ～10月12日（日）	東京芸術劇場 シアターイースト
6	芸劇オータムセレクション 『Mary Said What She Said』	上演プログラム	10月10日（金） ～10月12日（日）	東京芸術劇場 プレイハウス
7	ハンダ・ゴテ・リサーチ&ディベロップメント 『第三の手』	上演プログラム	10月17日（金） ～10月19日（日）	東京芸術劇場 シアターウエスト
8	フォースド・エンタテインメント 『Signal to Noise』	上演プログラム	10月17日（金） ～10月19日（日）	東京芸術劇場 シアターイースト
9	ユーバランス	上演プログラム	10月24日（金） ～10月25日（土）	東京芸術劇場 シアターイースト ロワー広場、アトリウム
10	うたうははごころ 『劇場版☆歌え！ 踊れ！ 育て！ ははごころの庭～子供服は 輪廻です～』	上演プログラム	10月25日（土） ～10月26日（日）	東京芸術劇場 シアターウエスト
11	シャヴィエ・ボベス 『やがて忘れてしまうもの』	上演プログラム	10月28日（火） ～11月3日（月・祝）	東京芸術劇場 シアターウエスト ほか
12	〔関田育子〕『under take』	上演プログラム	10月31日（金） ～11月3日（月・祝）	東京芸術劇場 シアターイースト
13	芸劇オータムセレクション ダミアン・ジャレ × 名和晃平『Planet[wanderer]』	上演プログラム	11月1日（土） ～11月3日（月・祝）	東京芸術劇場 プレイハウス
14	花形 横 『エルゴノミクス胚・プロトセル』	上演プログラム	11月1日（土） ～11月3日（月・祝）	東京芸術劇場 アトリウム
15	アリエル・ドロン 「オブジェクトシアター ワークショップ／プロフェッショ ナル編」	上演じゃないプログラム	10月28日（火） ～11月1日（土）	東京芸術劇場 シアターウエスト
16	アリエル・ドロン 「オブジェクトシアター ワークショップ／実験体験編」	上演じゃないプログラム	11月3日（月・祝）	東京芸術劇場 シアターウエスト
17	シビック・クリエイティブ・ベース東京〔CCBT〕 × 舞台 芸術祭「秋の隕石」Future Ideations Camp Vol.7 Super Sober Shamanism：同期・共在・模倣を演劇とテクノロジー の両岸から考える	上演じゃないプログラム	10月1日（水） ～10月12日（日）	東京芸術劇場 アトリウム、ギャラリー2
21	山口遥子 レクチャー 『現代オブジェクトシアターへのクイックガイド』	上演じゃないプログラム	10月18日（土） 13:00～	東京芸術劇場 シンフォニースペース
22	ウェルカムぎんが	ウェルカム体制 （＝来場サポートのこと）	10月1日（水） ～11月3日（月・祝）	東京芸術劇場 劇場前広場

1 オープニングプログラム『現実の別の姿／別の現実の姿』

「秋の隕石」の幕開けを謳うパフォーマンス。小説家・YouTuber・振付家を書くそれぞれの異なる世界が、パフォーマーたちによって池袋の劇場前広場で〈現実〉となり、交錯する。



© Satoshi Nishizawa

コンセプト：岡田利規

インストラクション：市川沙央、

ダ・ヴィンチ・恐山（品田遊）、手塚夏子

構成：手塚夏子、横田僚平

DJ：okadada

出演：青柳 潤、生実 慧、串尾一輝、佐藤 駿、芝崎健太、

瀧腰教寛、中川友香、西山真来 ほか

日程：2025年10月1日（水）17:30～

会場：GLOBAL RING THEATRE 〈池袋西口公園野外劇場〉

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」のオープニングを飾るのは、この新作野外パフォーマンスです。岡田利規のコンセプトを受け、市川沙央、ダ・ヴィンチ・恐山、手塚夏子の3名がテキストを執筆しました。

小説家の市川沙央は、自身と同じく筋疾患をもつ主人公を描いた『ハンチバック』で2023年に芥川賞を受賞し、記者会見で読書バリアフリーを訴えたことでも注目を浴びました。ライターでYouTuberそして小説家のダ・ヴィンチ・恐山は、常に仮面をつけた姿でインターネット上と物理的な空間の両方に出没し、独特のユーモアとギクシャクした振る舞いが人気を集めています。国内外で活躍する振付家である手塚夏子は、自身の家庭内での様子を撮影した数秒の映像を執拗に観察して記述し、振付に用いた『プライベートトレース』などの作品で知られています。

三者三様のテキストから生まれる三つの世界。会場に集められたパフォーマーにはいずれかのテキストが与えられていますが、観客にはそれがどれかはっきりとはわかりません。パフォーマーはテキストをそれぞれの方法で引き受けることを通じて、テキストに振り付けられます。互いに異なる現実のなかで過ごし、観客もまたそれに立ち会うという複数の現実が、夕暮れの池袋西口公園で交錯します。

上演言語：日本語

字幕言語：日本語・英語

上演時間：未定

<チケット情報>

チケット料金：入場無料・予約不要

注意事項：

※荒天中止、小雨決行

※開演の2時間30分前に開催情報を公式WEBサイト、SNSで告知します。

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：未定

ヒアリンググループ：なし

音声ガイド：なし

託児：あり

車いす席：あり

プロフィール

市川沙央／Saou Ichikawa

作家。1979年生まれ。『ハンチバック』『オフィーリア23号』

ダ・ヴィンチ・恐山／Da vinci Osorezan

品田遊／Yu Shinada

東京都出身。小説家・Webライター・YouTuber。株式会社バグハンバーグバグ所属。主な小説作品に『止まりだしたら走らない』や『名称未設定ファイル』、エッセイに『キリンに雷が落ちてどうする』などがある。記事メディア「オモコロ」のライター兼編集者として活動するほか、YouTube「オモコロチャンネル」のメンバーとしても活動。

公式サイト：<https://shinadayu.com/>

手塚夏子／Natsuko Tezuka

ダンサー／振付家。横浜生まれ。1996年より、マイムからダンスへと移行しつつ既成のテクニックではないスタイルの試行錯誤をテーマに活動を続ける。2001年より自身の体を観察する『私的解剖実験シリーズ』始動。同年、私的な実験の小さな成果が『私的解剖実験-2』に結晶。体の観察から関わりを観察を経て、社会、世界で起きる様々なことを観察するべく実験的な試みを行う。2013年、関東から福岡県へ活動拠点を移行。2018年10月にKyoto Experimentにて『点にダイブする』を上演。2018年4月から2021年6月までベルリンでダンス活動をしていたが、現在は福岡を中心に活動している。

横田僚平／Ryohei Yokota

言葉と身体をつかって演劇を集団創作する「オフィスマウンテン」に所属。市民劇や演技学校に通ったあと小劇場の舞台に出演して俳優活動を継続中。モノローグの芝居と素舞台の上演に出ることが多い。

okadada

DJ/producer。全国各地、多岐にわたるパーティーでDJとして出演し、ネットレーベル「maltine records」や「bandcamp」で楽曲をリリース。過去には「lost decade」「LESS」「AUDIO TWO」「now romantic」「ナイトメロウ」といった不定期なレギュラーパーティーに参加。

大小、上下、老若、場所、種別を問わず国内野外フェスから地下のパーティーまで出演、遊び、類例の無い幅広い活動で各所に存在、評価を確立する。その他、各種コンピレーションやアーティストへの楽曲提供、Remix、趣味のポッドキャスト、執筆、読書、散歩など様々な活動中。

スタッフ

照明：吉本有輝子、吉田一弥

衣裳：横田僚平

ドラマトゥルグ：羽鳥嘉郎（秋の隕石）

制作進行：大野洋子（ACC）

制作：根本晴美（秋の隕石）、半澤裕彦（秋の隕石）

詳細は[こちら](#)

同時開催

池袋まち歩きツアーを予定しております。（詳細はp47をご参照ください）



©深野未季（文藝春秋）



2 岡田利規

ダンス作品兼演劇作品『ダンスの審査員のダンス』

〈所有〉の論理に踊らされているわたしたちのための、ダンス作品兼演劇作品。
「秋の隕石」ディレクター岡田利規がダンサー・俳優・音楽家と手がける最新作。



© Yusei Fukuyama

作・演出：岡田利規

出演：中村恩恵、酒井はな、島地保武、
入手杏奈、矢澤 誠／小林うてな

日程：

2025年10月1日（水）～10月5日（日）

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

「秋の隕石」アーティスティック・ディレクター、岡田利規の最新作。ダンスの審査会に臨むダンスの審査員たちを描く、ダンス作品兼演劇作品です。ダンサーの中村恩恵、酒井はな、島地保武、入手杏奈、俳優の矢澤誠、音楽家の小林うてなが出演します。ダンサーがしゃべり、俳優が（ミュージシャンも？）踊るでしょう。哲学者・鷺田清一の、所有の概念をめぐる刺激的論考『所有論』（2024）に触発されて岡田はこの作品を構想しました。ダンス、ダンスを審査すること、身体の所有、といった論点を作品の中で展開していきます。抽象的・哲学的な思考を出発点とする、身体とユーモアを駆使した探求です。

そして「秋の隕石」と愛知県芸術劇場が共同で製作するこの作品は、リラックス・パフォーマンスとして上演されることを前提として創作されます。これは演出家岡田の新しい挑戦であり、「秋の隕石2025東京」を構成する重要な要素「ウェルカム体制（＝来場サポートのこと）」（P47）の体现でもあります。

上演言語：日本語

字幕言語：日本語・英語オープン字幕

上演時間：80分（予定）

<チケット情報>

発売日：一般発売 8月7日（木）～

チケット料金：【全席自由（整理番号付き）・税込み】

一般：5,500円

U29：2,800円

U18：1,000円

障害者割引：一般料金から10%引き

注意事項：p51のチケット情報ページをご確認ください

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：なし

ヒアリンググループ：あり

音声ガイド：あり

託児：あり

車いす席：あり

開演	10.1 Wed	10.2 Thu	10.3 Fri	10.4 Sat	10.5 Sun
16:00					▲◎
18:30				▲	
19:00	▲				
19:30		▲	▲		

<開場は開演の 30分前>

▲＝リラックス・パフォーマンス（p47参照）

◎＝見えない・見えにくいの方のための「音声ガイド」を実施いたします。（要予約）

プロフィール

岡田利規／Toshiki Okada

p6参照

中村恩恵／Megumi Nakamura

舞踊家。ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞受賞後渡欧。モンテカルロ・バレエ団を経て、イリ・キリアン率いるネザール・ダンス・シアターに所属し、世界を牽引する振付家達の創作に携わる。退団後は、キリアン作品のコーチも務め、パリ・オペラ座はじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。2007年より、活動拠点を日本に移し振付家としての活動を精力的に展開。Noism、Kバレエカンパニー、新国立劇場バレエ団等に作品提供するなど活躍の場を広げている。2022年よりDaBY(Dance Base Yokohama)のゲストアーティストとして活動。舞踊批評家協会新人賞、芸術選奨文部科学大臣賞、服部智恵子賞、紫綬褒章等多数の受賞歴を持つ。2024年より日本女子体育大学にて准教授を務める。



© Yusei Fukuyama

酒井はな／Hana Sakai

舞踊家。5才よりバレエを始め、畑佐俊明、牧阿佐美、三谷恭三に師事。1993年牧阿佐美バレエ団入団、18才で『くるみ割り人形』主役デビュー。1997年開場とともに新国立劇場バレエ団に移り、プリンシパルとして数々の初演を含む主演を務める。優れた表現力と高い技術に品格の備わった、日本を代表するバレエダンサーのひとり。クラシックバレエを中心にコンテンポラリーダンスやミュージカルにも出演。2013年島地保武と共にダンス・ユニット<アルトノイ>を立ち上げる。2009年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年第35回ニムラ舞踊賞、2017年紫綬褒章、2018年第39回橘秋子賞特別賞、2021年東京新聞舞踊芸術賞受賞。洗足学園音楽大学バレエコース客員教授。DaBY(Dance Base Yokohama)ゲストアーティスト。愛知県芸術劇場ダンスアーティスト。



© Yusei Fukuyama

島地保武／Yasutake Shimaji

ダンサー・振付家。2004~06年Noism（新潟市）、2006~15年ザ・フォーサイズ・カンパニー（フランクフルト）に所属。2013年に酒井はなのユニット<アルトノイ>を結成。2016年愛知県芸術劇場製作で環ROYと共作共演の『ありか』を初演以来10年に渡り国内外で再演し続けている。ダンスを軸に多岐に渡り活動している。DaBY(Dance Base Yokohama)ゲストアーティスト。愛知県芸術劇場ダンスアーティスト。



© Yusei Fukuyama

入手杏奈／Anna Irite

ダンサー・振付家。静岡県出身。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。コンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。近年の主な出演作に【舞台】『アーリントン（ラブ・ストーリー）』（白井晃演出）、『夜の女たち』（長塚圭史演出）、『バナナの花は食べられる』（山本卓卓作・演出）、『ジャズ大名』（福原充則演出）、『愛と正義』（山本卓卓作・益山貴司演出）等。また『ガラパコスパコス〜進化してんのかしてないのか〜』（ノゾエ征爾作・演出）に振付、『僕だけが正常な世界』（水野美紀作・演出）に振付、出演。YUKI、スキマスイッチ等多数の音楽PVに振付、出演。「第1回ソロダンサフェスティバル2014」最優秀賞受賞。桜美林大学非常勤講師。



© Yusei Fukuyama

矢澤 誠／Makoto Yazawa

俳優。大学在学中より演劇活動を始める。1年間の新聞社勤務を経て、NODA・MAP『ローリング・ストーン』（作・演出 野田秀樹）に出演。以降、独自の身体感覚を活かし、様々な演出家・振付家の作品に参加。これまでに、ミクニヤナイハラプロジェクト（作・演出 矢内原美邦）、カムカムミニキーナ（作・演出 松村武）、遊園地再生事業団（作・演出 宮沢章夫）、カンパニーデラシネラ（演出・振付 小野寺修二）などに出演。岡田利規作・演出作品では、チェルフィッチュ『わたしたちは無傷な別人である』『スーパープレミアムソフトWバニラリッチ』『消しゴム山』『リビングルームのメタモルフォーシス』などに出演。



© usei Fukuyama

小林うてな／Utena Kobayashi

音楽家。長野県在住。スティールパン、ハーブ、マリンバ、シンセサイザーなどを演奏する他、歌唱の際は独自の言語を用いる。民族音楽とロック、ダブなど様々なジャンルを織り交ぜたバンド「鬼の右腕」でも活動している。



スタッフ

音楽：小林うてな

舞台美術デザイン：佐々木文美

衣裳デザイン：藤谷香子

照明デザイン：櫛田晃代

音響デザイン：中原 楽（KARABINER inc.）

舞台監督：湯山千景、川上大二郎（スケラボ）

演出助手：中村未希

制作：平岡久美、金井美希

テクニカルディレクター：世古口善徳（愛知県芸術劇場）

統括プロデューサー：唐津絵理（愛知県芸術劇場 芸術監督）

製作：愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）、舞台芸術祭「秋の隕石」（東京舞台芸術祭実行委員会〔東京都、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）〕）

共同製作：Dance Base Yokohama（一般財団法人セガサミー文化芸術財団）

助成：ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーペル

協力：株式会社precog

Aichi Prefectural Art Theater
愛知県芸術劇場



DANCE REFLECTIONS
BY
VAN CLEEF & ARPELS

詳細は[こちら](#)

3 芸劇オータムセレクション

佐々木蔵之介ひとり芝居『ヨナ-Jonah』

東京芸術劇場 × ルーマニア・ラドゥ・スタンカ国立劇場 国際共同製作
孤独な暗闇をつき破り自由を求める男を演じる佐々木蔵之介のひとり芝居



原作：マリン・ソレスク
翻訳・修辞：ドリアン助川
演出：シルヴィウ・プルカレーテ
出演：佐々木蔵之介

日程：
2025年10月1日（水）プレビュー公演
2025年10月2日（木）～10月13日（月・祝）
会場：東京芸術劇場 シアターウエスト

旧約聖書に刻まれたクジラに飲み込まれた「ヨナ」の逸話。それを元に誕生した苦境を生きる人々への賛歌。演劇の原点に出会う、まったく新しい舞台が誕生する。

ルーマニアを代表する演出家シルヴィウ・プルカレーテと、佐々木蔵之介のタッグは『リチャード三世』（2017）、『守銭奴』（2022）に続く三度目。

本作は、5月21日（水）のワールドプレミアを皮切りに、東欧4ヶ国6都市ツアーをまわり、いずれも佐々木渾身の演技は大きな反響を呼びました。6月26日（木）にはシビウ国際演劇祭で上演。満を持しての凱旋公演にご期待ください。

開演	10.1 Wed	10.2 Thu	10.3 Fri	10.4 Sat	10.5 Sun	10.6 Mon	10.7 Tue	10.8 Wed	10.9 Thu	10.10 Fri	10.11 Sat	10.12 Sun	10.13 Mon
14:00			●	●	●	休			●	●			●
16:00						演					●	○	
19:00	◆	●				日	○	●					

<開場は開演の30分前>

◆＝プレビュー公演 ○＝聞こえない・聞こえにくいの方のための「ポータブル字幕機提供」を実施いたします。（要予約）

上演言語：日本語
字幕言語：英語
上演時間：80分

<チケット情報>
発売日：発売中
チケット料金：【全席指定・税込み】
一般：9,500円
一般：9,000円（プレビュー10/1、平日夜10/2・10/7・10/8 限定）
29歳以下：5,000円
高校生以下：1,000円

注意事項：
※未就学児入場不可
※29歳以下、高校生以下のチケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い（枚数限定・公演当日要証明書）。
※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。



<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：あり

ヒアリンググループ：あり

音声ガイド：なし

託児：あり

車いす席：あり

プロフィール

佐々木蔵之介／Kuranosuke Sasaki

京都府出身。

大学在籍中、劇団「惑星ピスタチオ」の旗揚げに参加。退団後、テレビ・映画・舞台など数多くの作品に出演。

近年の主な出演作に、ドラマ『マイホームヒーロー』『グレートギフト』、大河ドラマ『光る君へ』、映画『シャイロックの子供たち』『ゴジラ-1.0』『映画 マイホームヒーロー』、舞台『君子無朋』『破門フェデリコ〜くたばれ十字軍〜』など。

受賞歴に、第17回 読売演劇賞 優秀男優賞、第38回日本アカデミー賞 優秀主演男優賞、第43回日本アカデミー助演男優賞など。

佐々木蔵之介ファンサイト「[TRANSIT](#)」



シルヴィウ・プルカレーテ／Silviu Purcarete

1950年生まれ。ヨーロッパ三大演劇祭の一つであるルーマニア・シビウ国際演劇祭でのプルカレーテ演出の大スペクタクル『ファウスト』は、毎年のハイライトとして話題を集めている。また、その演出作品は、エディンバラやアヴィニョン、メルボルン、モントリオールなど、世界中の演劇祭に招聘されている。フランス政府から芸術文化勲章シュバリエ、ルーマニア政府から国家勲章を受章。演劇賞では、エディンバラ・フェスティバル批評家最優秀作品賞、ピーター・ブルック賞、ダブリン演劇祭批評家賞など。



スタッフ

舞台美術・照明・衣裳：ドラゴッシュ・ブハジャール

音楽：ヴァシル・シリー

ゼネラル・プロデューサー：鈴木順子 コンスタンティン・キリアック

照明コーディネーター：吉嗣敬介

音響：小内弘行

ドラマトウルク：山田カイル

通訳：加藤リツ子

舞台監督：浦 弘毅

国際コーディネーター：谷口真由美

制作進行：桑澤 恵

宣伝美術：永瀬祐一

広報：森 明晞子

企画製作：東京芸術劇場、ラドゥ・スタンカ国立劇場

助成：一般財団法人地域創造

国際移動協賛：全日本空輸株式会社

後援：在日ルーマニア大使館

協力：シビウ国際演劇祭



詳細は[こちら](#)

4 Shakespeare's Wild Sisters Group × 庭劇団ペニノ

『誠實浴池 せいじつよくじょう』

夜毎、大衆浴場に戦死した男たちがやってきて、残してきた女を想い〈プレイ＝演劇〉する。タニノクロウ × 王嘉明、日本・台湾の異才どうしのコラボレーション。



photo by Hsuan-Lang LIN, provided by National Theater & Concert Hall

作：王嘉明（ワン・チャミン）、タニノクロウ
 演出：王嘉明（ワン・チャミン）、タニノクロウ
 出演：Fa（ファ）、楊迦恩（ヤン・ジャエン）、崔台鎬（ツウエ・タイハウ）、陳以恩（チェン・イーエン）、洪佩瑜（ホン・ペイユー）（台湾）
 片桐はいり、金子清文、藤丸千（日本）

日程：
 2025年10月3日（金）～10月5日（日）
 会場：東京芸術劇場 プレイハウス

国際的に活躍する劇作家・演出家による、川端康成の小説『眠れる美女』を下敷きにした日台共同戯曲・演出作品。

庭劇団ペニノを主宰するタニノクロウと、台湾のShakespeare's Wild Sisters Groupの団長の王嘉明（ワン・チャミン）による本作品は、2024年台湾の国立劇場國家戲劇院で初演されました。ふたりは幾度となく話し合いを重ね、時間をかけて、この物語を書き上げました。「昔々、ある小さな島国に名の無い銭湯がありました」というナレーションから始まるこの劇は、日本と台湾の出演者たちによって、それぞれの言語で演じられます。精神科医としてのキャリアのあるタニノは、人間の潜在的欲望が投影された、美しい悪夢のような独特な物語世界を持つアーティスト。王は、音と視覚の効果のリミックスや、物語を巧みに組み換える演出を得意としています。二人の実験的な共働による大人のおとぎ話を、日台の個性豊かなキャスト陣が演じます。特に、2022年にデビューした歌手・洪佩瑜（ホン・ペイユー）を含むキャストによる歌唱が大きな効果を生んでいます。

上演言語：日本語・中国語

字幕言語：日本語・英語・中国語（繁体字）オープン字幕

上演時間：100分

<チケット情報>

発売日：一般発売 8月7日（木）～

チケット料金：【全席指定・税込み】

一般 S席：6,000円

一般 A席：4,000円

U29 S席：3,000円

U29 A席：2,000円

U18：1,000円

障害者割引：一般料金(S・A)から10%引き

注意事項：

※未就学児入場不可

※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。

鑑賞サポート

バリアフリー日本語対応：あり
 ヒアリンググループ：あり
 音声ガイド：なし
 託児：あり
 車いす席：あり

★＝アフターイベント（英語のみ）付きチケット販売予定 *詳細は後日発表。
 ▲＝リラックス・パフォーマンス（p47参照。ただし、照明、音響、未就学児不可は通常公演と一緒に
 です。）
 ○＝聞こえない・聞こえにくい方のための「ポータブル字幕機提供」を実施いたします。（要予約）

開演	10.3 Fri	10.4 Sat	10.5 Sun
13:30			▲○
16:00		★	
19:30	●		

<開場は開演の 30分前>

プロフィール

シェイクスピアズ・ワイルド・シスターズ・グループ／Shakespeare's Wild Sisters Group

1995 年夏に設立。「シェイクスピアの妹たち」の意である劇団名は、イギリスの作家ヴァージニア・ウルフの『自分だけの部屋（A room of One's Own）』の登場人物が由来。女性の才能を男性中心の体制からの圧迫という呪縛から解き放つという意味がある。独創的な美学とスタイルを模索し続け、毎年実験的な新作の発表と国内外との文化交流を行う。1997 年以降、多くの国・都市に招かれ、これまでに香港、マカオ、北京、青島、釜山、東京、ベルリン、シンガポール、神戸、パリ、アヴィニョンなどで公演。国内外での芸術と文化の交換に加え、創作プラットフォームの運営、演劇教育の推進、文化政策への参加を続けている。

Web: <http://www.sws95.com.tw/>

庭劇団ペニノ／NIWA GEKIDAN PENINO

2000年に結成。自宅マンションを改造した劇場スペース「はこぶね」や、野外での上演など、空間そのものの鋭いこだわりを特徴とし、緻密に作り込まれた美術とともに独自の世界観を提示してきた。2009年以降は、国内外の舞台芸術祭へ多数招聘され、近年はVR演劇『ダークマスター VR』など、新たな表現領域にも積極的に取り組んでいる。

Web: <https://niwagekidan.org/>

王嘉明／Chia-Ming Wang（ワン・チャミン）

シェイクスピアズ・ワイルド・シスターズ・グループ（莎士比亞的妹妹們的劇團）団長。入り組んだ作風や実験性、大衆的な演出で知られる。パフォーマンススタイルの特殊な設計を通して、俳優たちと共同作業を行い、演劇の可能性と向き合い思索を深めている。2018年には「東京芸術祭」に招待され『珈琲時光』を、2019年には、「パリ・フェスティバル・ドートンヌ」において招待公演として『ディア・ライフ（親愛の人生）』を上演し、48年の歴史をもつフェスティバルにおいて初めて台湾の戯曲作品を披露した。2009年、高雄で開催された「ワールドゲームズ 2009」では開幕式第3ステージの演出を、2014年の「第51回金馬賞」では映画の2次審査と最終審査の審査員を、そして、2014年から2016年まで、「伝芸金曲賞」のキュレーター兼セレモニーディレクターを務めた。



© Ya-Chun YANG

タニノクロウ／Kuro Tanino

1976年富山県出身。庭劇団ペニノの主宰、座付き劇作・演出家。医学部在学中に劇団を旗揚げし、2016年『地獄谷温泉 無明ノ宿』にて第60回岸田國士戯曲賞を受賞。そのほか、2016年北日本新聞芸術選奨受賞、第71回文化庁芸術祭優秀賞受賞。2019年第36回とやま賞文化・芸術部門受賞。2022年、フランス国立ジュヌビリエ劇場アソシエイトアーティストに就任。2024 年より岸田國士戯曲賞審査員を務める。2022年より富山市政策参与を務めた後、2025年5月より富山市政策アドバイザーに就任。





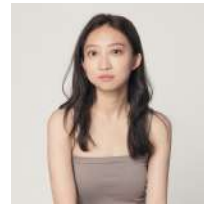
FA © 叮咚



崔台鎬 ©Kris Kang



楊迺恩 ©呂威聯



陳以恩 ©蔡之凡



洪佩瑜 ©石田真澄



片桐はいり

©Stardust Promotion, Inc.



金子清文



藤丸 千

スタッフ

舞台監督：鄧湘庭（テン・シャンティン）
美術：鄭烜勛（ジェン・シュエンシュン）
衣裳：靳萍萍（ジン・ピンピン）、張渝婕（チャン・ユージェエ）
音響：陳鐸夫（チェン・ドオファー）
照明：王天宏（ワン・ティエンホン）
音楽：柯智豪（コー・ジーハオ）
プロデューサー：新田幸生、小野塚 央

＜舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」＞
プログラムコーディネーター：與田千菜美
プロデューサー：中原信貴

製作：Shakespeare's Wild Sisters Group、庭劇団ペニノ（合同会社アルシュ）
初演 / 委嘱：National Theater & Concert Hall, Taiwan
助成：財団法人國家文化藝術基金會

5 フェイ・ドリスコル『Weathering』

五感に迫る圧倒的パフォーマンス作品。変転し風化するこの世界を映す超凝縮の70分



©Tiffany Bessire, OZ Arts, 2025

コンセプト・振付・演出：フェイ・ドリスコル

出演：ジェームズ・バレット、カーラ・プロディ、デビッド・グズマン、エイミー・ジェルヌクス、マイケル・マライ・ネアーン、マヤ・ラリベルテ、ジェニファー・ニュージェント、コリー・シールズ、カルロ・アントニオ・ヴィラヌエバ、ジョー・ウォーレン

日程：2025年10月10日（金）～10月12日（日）

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

2023年ニューヨークで初演、絶賛された『Weathering』は、舞台上で絵画を再現する活人画の手法を参照した、セリフの無いパフォーマンス作品です。海に漂う筏に乗った、10人のパフォーマーの身体表現と音、香り、液体、オブジェクトが作り上げる、肉体の彫刻にもたとえられます。風化を意味し気候（weather）という語も含むタイトルのとおり、地球上で存在が風化していくさまを観客は五感で受け止め、時に知覚を混乱させられながら体験する圧倒的な作品です。ニューヨークとロサンゼルスを拠点に活動するフェイ・ドリスコルは、身体と声、オブジェクトとライブサウンドを用いながら、世界は実は人間と同様に生命をもち、永遠に変化し続けていることを作品で表現する作家で、今回が初来日です。これまでに、「驚くほど独創的な才能」、「ミレニアム以降におけるポストモダンのワイルド・ウーマン」などと評されています。

上演言語：ノンバーバル

上演時間：約70分

<チケット情報>

発売日：一般発売 8月7日（木）～

チケット料金：【全席自由（整理番号付き）・税込み】

一般：6,000円

U29：3,000円

U18：1,000円

障害者割引：一般料金から10%引き

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：なし

ヒアリングループ：あり

音声ガイド：あり

託児：あり

車いす席：あり

注意事項：

※15歳未満入場不可。

※一部のパフォーマーが部分ヌードになります。

※パフォーマーがステージ近くの観客に近づき一定の時間接触する可能性があります。

※途中入場不可。

※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。

開演	10.10 Fri	10.11 Sat	10.12 Sun
16:00			◎
19:00	●		
20:00		★	

<開場は開演の15分前>

★＝開演前、関連ワークショップあり

◎＝見えない・見えにくいの方のための「音声ガイド」を実施いたします。（要予約）

プロフィール

フェイ・ドリスコル / Faye Driscoll

ニューヨークとロサンゼルスを拠点に活動するパフォーマンス作家／アーティスト。多数の受賞歴がある。過剰にメディア化された現代において、ライブ・パフォーマンスこそが根本的かつ必要不可欠であるという信念のもと、身体、声、オブジェクト、ライブサウンドを巧みに融合させて創作し、私たち同様に生きていて変化し続ける世界を現前させている。

これまでに、タンツ・イム・アウグスト（ベルリン）、クンステンフェスティバルデザール（ブリュッセル）、ヴェネチア・ビエンナーレ、フェスティバル・ドートンヌ（パリ）、ディアス・ダ・ダンス・フェスティバル（ポルト）など、全米および世界各地で作品が上演されてきた。

主な受賞歴に、オビー賞、ドリス・デューク賞、グッゲンハイム・フェローシップ、ベッシー賞、ジェイコブズ・ピロー・アーティスト賞がある。最新作『Weathering』でもオビー賞を受賞し、世界各地でツアーを展開中である。



© Beatrice Borger

スタッフ

舞台美術：ジェイク・マーゴリン、ニック・ヴォーン

照明デザイン：アマンダ・K・リンガー

音響・音楽監督：ソフィア・ブルス

ライブサウンド・サウンドデザイン：ライアン・ガン布林

作曲・フィールドレコーディング・サウンドデザイン：ギヨーム・スーラ

衣装デザイン：カレン・ボイヤー

ドラマトゥルグ・香りのデザイン：ダゲス・ジュベリエ・キーツ

振付助手：エイミー・ジェルヌクス

インティマシー・コーディネーション：イエフダ・デュニャス

技術監督・照明ディレクター：コーナー・セール

舞台監督・小道具：エミリー・ヴィジナ

カンパニー・マネージャー：モーガン・グリフィン

プロデューサー：アレックス・マシューズ

＜舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」＞

プログラムコーディネーター：遠藤七海

プロデューサー：中原信貴

『Weathering』は、ニューヨーク・ライブ・アーツのランジェロヴィッチ／ストライカー・レジデント・コミッションド・アーティスト・プログラムの一環として委託・制作された。ノースカロライナ大学チャペルヒル校のカロライナ・パフォーミング・アーツ、メロン財団、ハワード・ギルマン財団、ルエスター・T・メルツ慈善信託、ドリス・デューク慈善財団の主導的な資金提供によって実現したジョイス・シアター基金のアーティスト・レジデンス・センター、ワイオミング州ジャクソンホールのダンサーズ・ワークショップ、ウェクスナー芸術センター、フランクフルト・オフエンバッハのテアター・デア・ヴェルト2023、およびジュリダンス・アムステルダムに共同委嘱されている。

また本作は、フェイ・ドリスコルのコミッションナース・サークルのメンバー、ニューヨーク州芸術評議会、カフェ・ロイヤル文化財団、ニューヨーク市文化局からも支援を受け、ワイオミング州ジャクソンホールのダンサーズ・ワークショップ、フロリダ州立大学マギー・アレン国立振付センター、ジェイコブズ・ピローのピロー・ラボでの滞在制作を行った。

詳細は[こちら](#)

6 芸劇オータムセレクション

『Mary Said What She Said』

実験演劇の巨匠ロバート・ウィルソン演出による、フランスが誇る名優、イザベル・ユペールの一人芝居。悲劇の女王、メアリー・スチュアートの処刑前夜のモノローグ。



© LUCIE JANSCH

演出・舞台美術・照明：ロバート・ウィルソン

出演：イザベル・ユペール

作：ダリル・ピンクニー

音楽：ルドヴィコ・エイナウディ

日程：

2025年10月10日（金）～10月12日（日）

会場：東京芸術劇場 プレイハウス

従妹エリザベス一世との権力闘争に敗れた16世紀の悲劇のスコットランド女王、メアリー・スチュアートの処刑前夜。陰謀と策略に翻弄された数奇な一生を振り返り、溢れ出る内面と葛藤、そして依然として戦い続ける女王の姿を、詩的な言葉と鮮烈な視覚演出で描き出す孤高の世界。イザベル・ユペールの圧倒的な存在感と共に、運命に抗い自らの言葉と意志を貫いた一人の女性の姿が鮮やかによみがえる。極限の演技と演出美を体感する、唯一無二の舞台体験！

上演言語：フランス語

字幕言語：日本語

タブレットにて英語字幕対応予定（12日のみ）

上演時間：90分（予定）

<チケット情報>

発売日：発売中

チケット料金：【全席指定・税込み】

S席：12,000円

A席：9,500円

29歳以下（A席）：9,000円

サイドシート：5,000円

高校生以下：1,000円

注意事項：

※未就学児入場不可、中学生以上推奨。

※前方席は字幕が見えにくい場合があります。

※29歳以下、高校生以下のチケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱（枚数限定・公演当日要証明書）

※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。

開演	10.10 Fri	10.11 Sat	10.12 Sun
14:00		●	○
18:00		●	
19:00	●		

<開場は開演の 30分前>

○＝聞こえない・聞こえにくいの方のための「ポータブル字幕機提供」を実施いたします。（要予約）

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：あり
 ヒアリンググループ：あり
 音声ガイド：なし
 託児：あり
 車いす席：あり

プロフィール

ロバート・ウィルソン／Robert Wilson

テキサス州出身の演出家・舞台美術家。1960年代後半から同時代の演劇やオペラに強烈な影響を与えてきた。フィリップ・グラスと共作した前衛オペラ『浜辺のアインシュタイン』（1976年）で一躍脚光を浴び、以降、演劇、オペラ、ダンスの世界で革新的な作品を次々と発表。ハイナー・ミュラー、トム・ウェイツ、スーザン・ソントグ、ローリー・アンダーソン、ウィリアム・バロウズ、ルー・リード、ジェシー・ノーマンなど、時代をリードする芸術家、作家、音楽家たちとコラボレーションを重ね、実験演劇界の巨匠、視覚芸術の革新者として国際的に高い評価を得ている。ピューリッツァー賞のノミネート、ヴェネツィア・ビエンナーレ金獅子賞、オリヴィエ賞など受賞歴も多数。ニューヨーク州にある芸術研究所ウォーターミル・センターの創始者であり芸術監督を務めている。



© Yiorgos Kaplanidis

イザベル・ユペール／Isabelle Huppert

パリ出身。映画界でキャリアを始めるや瞬く間にフランスと世界で注目される存在となり、クロード・シャブロール、ジャン・リュック・ゴダール、ミハエル・ハネケ、フランソワ・オゾン、タヴィアーニ兄弟ら、名だたる映画監督のミューズとして『ピアニスト』『主婦マリーがしたこと』『沈黙の女 ロウフィールド館の惨劇』『エル ELLE』などに出演。カンヌ国際映画祭女優賞を2度、セザール賞、ゴールデン・グローブ賞などを受賞。第62回カンヌ国際映画祭、第34回東京国際映画祭では審査委員長を務めた。舞台では『オーランドー』でロバート・ウィルソン演出作品に出演ほか、ハイナー・ミュラー『カルテット』、ベネディクト・アンドリュース演出ジュネ作『女中たち』ほか。イヴォ・ヴァン・ホーヴェ演出『ガラスの動物園』で来日。ロバート・ウィルソン演出作品は本作が3作目となる。映画、舞台の最前線で活躍し続けている。



© Peter Lindbergh

ダリル・ピンクニー／Darryl Pinckney

インディアナ州出身の作家、劇作家、エッセイスト。代表作『High Cotton』（1992）は、1960年代の黒人中産階級の青年の成長を描いた半自伝的小説で、ロサンゼルス・タイムズの新人小説賞を受賞。著作を通じて、アフリカ系アメリカ人の歴史や文化、アイデンティティに関する深い洞察を提供している。ロバート・ウィルソンとは長年にわたり創作パートナーとして協働し、本作、『オーランドー』（1989）、『ドリアン』（2022）ほか、8つのウィルソン作品の脚本脚色を手掛けている。



© LUCIE JANSCH

ルドヴィコ・エイナウディ／Ludovico Einaudi

トリノ出身の作曲家・ピアニスト。トリノ、ミラノ音楽院でクラシック音楽を学ぶ。ルチアーノ・ベリオに師事したのち、オーケストラ、バレエ、映画、演劇など多岐に渡るジャンルの音楽を手掛ける。『Le Onde』（1996）、『Divenire』（2006）、『In a Time Lapse』（2013）などの代表作の他、アカデミー作品賞を受賞したC・ジャオ監督『ノマドランド』（2020）、是枝裕和監督『三度目の殺人』（2017）、F・ゼレール監督『ファーザー』（2020）ほか、数々の名作映画の音楽も手掛けている。



© RAY TARANTINO

製作：Théâtre de la Ville-Paris

共同製作：Wiener Festwochen, Teatro della Pergola - Florence, Internationaal Theater Amsterdam, Thalia Theater - Hamburg,

協力：EdM Productions

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会 笹川日仏財団

協賛：ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーペル
 三精テクノロジーズ

後援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ



7 ハンダ・ゴテ・リサーチ&ディベロップメント『第三の手』

オブジェクトの断片が生成し続ける、めくるめく〈人形劇〉の小宇宙。チェコ・オルタナティブ演劇シーンの傑作が待望の初来日！



©Martin Špelda

作：シュヴァーボヴァー&ドブロディンスカー、kosmo_nauty、デルネル&ニエメツ、プロハースカ

出演：トマーシュ・プロハースカ、ヴェロニカ・シュヴァーボヴァー、ヤン・デルネル／ヴァウジネツ・ニエメツ

日程：

2025年10月17日（金）～10月19日（日）

会場：東京芸術劇場 シアターウエスト

＜山口遥子キュレーション＞

ハンダ・ゴテ・リサーチ&ディベロップメントは、チェコの現代オルタナティブ演劇シーンを担う劇団の一つ。2005年の結成以来、演劇、コンテンポラリーダンス、ビジュアルアート、音楽、パフォーマンス、コンセプチュアルアートの境界線上で作品を創り続け、今や50以上の作品を発表しています。これまで自然物から工業機械まで、さまざまなオブジェクトと共に舞台作品を作り続けてきました。

2023年初演の『THE THIRD HAND TŘETÍ RUKA（第三の手）』は、このカンパニーが〈人形劇〉の分野に回帰した2作目で、1990年代の実験的な〈人形劇〉を蘇らせる試みです。

個々の歴史を持つオブジェクトを次々と投入し、付随する物語や社会的意味が舞台上で再生成される瞬間を無数に生み出します。断片的な複数の物語や状況、イメージを提示し、観客に作品への解釈を委ねることで、複数の視点からアクセスできる〈人形劇〉の小宇宙を構築するその作品世界は、カンパニーの最高傑作とされています。

上演後はバックステージが解放され、観客は舞台上でアウラをまとっていた個々のオブジェクトを間近に眺め、写真撮影を行うことができます。

上演言語：ノンバーバル

上演時間：70分（予定）

＜チケット情報＞

発売日：一般発売 8月7日（木）～

チケット料金：【全席自由（整理番号付き）・税込み】

一般：4,500 円

U29：2,300円

U18：1,000円

障害者割引：一般料金から10%引き

注意事項：p51のチケット情報ページをご確認ください。

＜鑑賞サポート＞

バリアフリー日本語対応：なし

ヒアリングループ：あり

音声ガイド：なし

託児：あり

車いす席：あり

開演	10.17 Fri	10.18 Sat	10.19 Sun
15:00		★	●
18:00	●		

＜開場は開演の20分前＞

★＝開演前、オブジェクトシアターに関するレクチャーあり。（詳細はp45）

プロフィール

ハンダ・ゴテ・リサーチ & ディベロップメント

／Handa Gote Research & Development

チェコを拠点とする、現代と伝統のアプローチを融合し、多様な芸術的視点を取り入れた自由な創作活動を行う学際的なアートラボ。2005年から活動を続けており、演劇、ダンス、視覚芸術、音楽、テクノロジーを組み合わせ、ポストドラマ演劇、メディア考古学、ドキュメンタリー演劇の探求を行っている。彼らの作品は記憶や消えゆく伝統に焦点を当てるとともに、持続可能性、リサイクル、伝統文化を重視しており、視覚芸術やオブジェ、インスタレーションの創作にもその考えが反映されている。



スタッフ

技術スタッフ：ヤン・デルネル／ヴァヴジネツ・ニエメツ

制作：ヤクブ・ホラ

プロデューサー：マリア・カヴィナ（Jedefrau.org）

<舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」>

オブジェクトシアター キュレーター：山口遥子

プログラムコーディネーター：小森あや、大野洋子（ACC）

プロデューサー：中原信貴

※10月18日（土）

山口遥子キュレーターによる「現代オブジェクトシアターへのクイックガイド」レクチャーあり(p45)

詳細は[こちら](#)



8 フォースド・エンタテインメント『Signal to Noise』

AI音声にリップシンクさせながらドタバタと熱演する俳優たちは、生身のディープフェイク！？遊び心あふれる演劇が〈リアル〉を挑発する。



© Hugo Glendinning

作・演出：ティム・エッチェルス
出演：ロビン・アーサー、セケ・チムテングウェンデ、リチャード・ロウドン、クレール・マーシャル、キャシー・ナデン、テリー・オコネル

日程：
2025年10月17日（金）～10月19日（日）
会場：東京芸術劇場 シアターイースト

英国シェフィールドを拠点とする老舗カンパニー、フォースド・エンタテインメントの劇団設立40周年記念作品。ダンス、リハーサル、口論、舞台転換、突発的な天気予報からなるフラグメントが舞台上に展開し、6人のパフォーマーはAIの声に合わせてリップシンクします。時に慎重に、時に投げやりに、身体を持たない声に命を吹き込むことで、何が人間で何がそうでないのか、何がリアルで何がそのふりをしているのか、その境界が曖昧な、不思議で魅力的な世界が生まれます。

ティム・エッチェルスによる音楽もまた、映画的な雰囲気のものからノイズ、木琴、ゆっくりと演奏される弦楽器、ビート、トランペット、グランジギター、鳥のさえずりまで、多彩な要素から構成されています。そしてパフォーマーのあふれるエネルギーと即興力が、上演のすみずみまで発揮されます。オーディオとフィジカルの二つのレイヤーが同時に、舞台上のリズムやエネルギーを変化させ展開していきます。

フォースド・エンタテインメントの作品は常に遊び心に満ち、挑発的・刺激のかつ思索的です。メンバー6名の協働によるオリジナリティあふれる作品は、世界中の演劇界に影響を及ぼし、演劇言語をアップデートしてきたといっても過言ではありません。

上演言語：英語
字幕言語：日本語・英語オープン字幕
上演時間：90分

<チケット情報>

発売日：一般発売 8月7日（木）～
チケット料金：【全席自由（整理番号付き）・税込み】
一般：5,500円
U29：2,800円
U18：1,000円
障害者割引：一般料金から10%引き

注意事項：p51のチケット情報ページをご確認ください。

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：なし
ヒアリングループ：あり
音声ガイド：あり
託児：あり
車いす席：あり

開演	10.17 Fri	10.18 Sat	10.19 Sun
13:00			◎
19:00		●	
19:45	●		

<開場は開演の30分前>

◎＝見えない・見えにくいの方のための「音声ガイド」を実施いたします。（要予約）

プロフィール

フォースド・エンタテインメント／Forced Entertainment

1984年に結成されたアーティスト集団。英国、ヨーロッパ、北米、日本、オーストラリアなど世界各地でツアーや公演を行い、40年以上にわたって独自のコラボレーションスタイルを続けている。

アーティストであり作家のティム・エッチェルスを中心に、パフォーマーであるリチャード・ロウドン（兼デザイナー）、ロビン・アーサー、クレール・マーシャル、キャシー・ナデン、テリー・オコネルで構成されている。この中心メンバーに加え、長年にわたって多くのゲストアーティストやパフォーマーたちも作品に参加している。

彼らの作品は、ジャンル、ナラティブ（物語）、演劇の枠組みそのものを問い直し、ときに破壊することで新たな表現の地平を切り開いてきた。そのインスピレーションは演劇のみならず、ダンス、パフォーマンスアート、音楽、キャバレー、スタンダップ・コメディといった多様な領域に及ぶ。規模もさまざま、テキストに焦点を当てた2人芝居のような親密な作品から、大人数のスペクタクルな舞台まで多岐にわたる。

刺激的で挑戦的、かつ観客を楽しませつつ思考を促すフォースド・エンタテインメントの作品は、現代演劇の言語を築く上で重要な役割を果たしている。また、英国演劇の発展とその形式自体の探求に多大な貢献を果たすと同時に、若い世代のアーティストたちにも大きな影響を与えている。

2016年、ピーター・ブルック、ハイナー・ゲッベルス、ヨン・フォッセ、アリアヌ・ムヌーシュキン、ペーター・ハントケら著名人も受賞した、演劇界に新たな芸術的次元をもたらした個人・団体に贈られる国際イブセン賞を受賞。



©Hugo Glendinning

ティム・エッチェルス／Tim Etchells

イギリスを拠点に活動するアーティスト・作家、ヴィジュアル・アート、小説、パフォーマンスを横断する表現者。シェフィールドを拠点とするアーティスト集団フォースド・エンタテインメントのリーダーとして、長年にわたり芸術監督を務めている。

多様な表現スタイルで世界各地の主要な美術館やフェスティバルで発表され、これまでにメグ・スチュアート/ダメージドグッツ、マリーノ・フォルメンティ、タウス・マハチェヴァ、ヴラトカ・ホルヴァット、アント・ハンブトン、アイシャ・オラズバエヴァ、トニー・バック（ザ・ネックス）、エルムグリーン&ドラッグセットらと共演している。

著作としては、短編小説集『Endland』（2019年、And Other Stories 刊）や、集団によるパフォーマンス創作について深く考察した著書『Certain Fragments』があり、後者は舞台芸術研究において重要な文献とされている。

2023年ドイツのスペクターブックスよりフォースド・エンタテインメントとの活動とネオンインスタレーション作品に関する2冊のモノグラフを刊行。また、ギャラリー・エーベンスペルガー（ベルリン/ウィーン）でも彼の作品が扱われている。



スタッフ

ドラマトウルグ：タイローン・ヒューギンズ

美術：リチャード・ロウドン

音響デザイン：ティム・エッチェルス

照明デザイン：ニガール・エドワード

制作：ジム・ハリソン

プロデューサー：アイリーン・エヴァンス

<舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」>

プログラムコーディネーター：與田千菜美

プロデューサー：中原信貴

世界初演：2024年3月21日

会場：パクトツォルフライン（ドイツ・エッセン）

フォースド・エンタテインメントアーティストックチーム：ティム・エッチェルス（芸術監督）、ロビン・アーサー、リチャード・ロウドン（兼デザイナー）、クレア・マーシャル、キャシー・ナデン、テリー・オコネル

フォースド・エンタテインメントマネジメントチーム：デボラ・チャドボーン（共同エグゼクティブ・ディレクター）、アイリーン・エヴァンス（共同エグゼクティブ・ディレクター）ジム・ハリソン（ツアー・プロデューサー/制作）、ジェシカ・マシューズ（地域連携プロデューサー）

詳細は[こちら](#)

9 ユーバランス

サウンドエンジニアと多ジャンルなアーティストで織りなす、同時多発的音楽イベント。
会場に生まれるグラデーションの中で、いいと思う〈バランス〉を見つけて過ごす2日間。



ディレクション：葛西敏彦

ユーバランスクリエイションスタッフ：

大原大次郎、岡本太玖斗、井上千聖、佐々木文美、藤谷香子、高野 洋、佐藤 恵、久保二郎、中原 楽、松田健一、高田政義、河村美帆香、平野みなの、常田 恵 ほか

出演：網守将平、井上 銘、梅林太郎、岡田拓郎、小田朋美、音無史哉、カニササレアヤコ、香田悠真、ゴンドウトモヒコ、崎山蒼志、澤部 渡（スカート）、詩的な食卓（石塚周太＋イトケン＋大崎清夏＋葛西敏彦）、想像力の血、蓮沼執太チーム、原元由紀、日野浩志郎、福原 音、マーティ・ホロベック、街裏ぴんく、松丸 契、三浦康嗣、皆神陽太、ユザーン、ermhoi、Rico（LAUSBUB） ほか

日程：

2025年10月24日（金）15:30～21:00（予定）

2025年10月25日（土）14:30～21:00（予定）

会場：東京芸術劇場 シアターイースト、ロワー広場、アトリウム

<受付は開演の60分前、開場は開演の30分前>

※有料の劇場ツアーを予定。詳細は後日発表。

レコーディングやライブ音響を手がける、サウンドエンジニアである葛西敏彦がディレクションする「ユーバランス」。2024年に渋谷WWWで初回が開催されました。今回も弾き語りから、和楽器、漫談など、多岐にわたるジャンルの総勢20組程のアーティストが参加します。この出入り自由の音楽イベントでは、複数の場所で同時多発的に出来事が起こり、全てを見聞きすることはできません。重なり合ったり変動し続けている音そして雰囲気の中、観客それぞれが、さまざまな揺らぎのバランスをとること、いいと思う瞬間を見つけて楽しむための時間です。特設のスピーカーシステムによって生まれる、アトリウム空間の上下でまるで異なる音風景。あるいは、ミュージシャンの制作過程が垣間見られるスタジオなど、無数のグラデーションが準備されています。

ユーバランスディレクター 葛西敏彦 コメント

新しい感覚を知覚したい、と思う。

感覚を揺らがせるために、対極にあるような混じり合わなそうなものを混ぜてみる。

有機と無機。騒音と楽音。並行する時間軸。演者と鑑賞者、スタッフ...などなど。境目を決めることは日々を効率的に過ごすにはとても快適だが、そこに線が引かれていることで思考停止を引き起こす瞬間もある。手間はかかるが、毎瞬考えることをやめないようにする。

体感を大切に。頭で考えて理解するよりも、目の前の環境に入ってそこから自分なりの感覚を引き出す。

バランスを取るのは自分自身で。

<チケット情報>

発売日：一般発売 8月7日（木）～

チケット料金：【全席自由・税込み】

<1日券>一般：6,000円、U29：3,000円、U18：1,000円

<2日券>一般：11,000円、U29：5,500円、U18：2,000円

未就学児：無料

障害者割引：一般料金から10%引き

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：なし

ヒアリングループ：あり（シアターイーストのみ）

音声ガイド：なし

託児：あり

車いす席：あり

注意事項：

※有料エリアと無料エリアがございます。

※有料エリアの最終入場時間は24日（金）20:00、25日（土）19:30となります。

※出演者のパフォーマンスエリアとタイムテーブルは後日発表いたします。

※有料エリアは、チケット1枚につき、1名様のみご入場いただけます。（小学生以上の方全て、1名様につき1枚のチケットが必要となります。）

※受付にてチケットとリストバンドを交換いたします。

※リストバンドのご提示で有料エリアへの入場／再入場可となります。

※リストバンドを外された場合、または破損した場合、有料エリアへの入場はできません。大切にお取り扱いいただき絶対に外されないようお願いいたします。

※リストバンドの再発行はいかなる理由でも一切いたしません。

※不正入場が発覚した場合は、いかなる理由でも退場していただきます。

※全日程で記録のため撮影を行います。予めご了承ください。

※出演者が変更になる場合がございます。出演者の変更及びキャンセルによる払い戻しはいたしません。

※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。

プロフィール

ユーバランス／YOU BALANCE

ユーバランスとは、「揺らぎの中で自分自身が見つけるバランス」をテーマに、様々なジャンルの出演者が音楽を媒体に会場内の複数箇所で音・物・光・人の境目を揺らがす事を試行するイベント。

Web: <https://youbalance.net/>

Instagram: https://www.instagram.com/u_balance_u/

葛西敏彦／Toshihiko Kasai

スタジオ録音からライブPA、サウンドインスタレーションなど、場所を問わず音へのアプローチを続けるサウンドエンジニア。蓮沼執太、青葉市子、スカート、岡田拓郎、小西遼などを手がける他、舞台作品への参加やサウンドプロデュースも行うなど、活動の幅を広げている。音楽レーベルS.L.L.S Records（シルスレコード）主宰。

スタッフ

ディレクション：葛西敏彦

イメージ部：大原大次郎、岡本太玖斗、井上千聖、佐々木文美（FAIFAI）、藤谷香子（FAIFAI）

舞台監督：高野 洋、佐藤 恵、柴田果奈子

音響：久保二郎（ACOUSTIC FIELD INC.）、中原 楽（KARABINER inc.）、松田健一（SYNK）、近藤聡子、馬場友美

照明：高田政義（RYU）

制作：河村美帆香（合同会社syuz'gen）、平野みなの（合同会社syuz'gen）、常田 恵

<舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」>

プログラムコーディネーター：根本晴美、半澤裕彦

技術協賛：ヤマハ株式会社、ヤマハサウンドシステム株式会社、株式会社ヤマハミュージックジャパン

10 うたうははごろろ

『劇場版☆歌え！踊れ！育て！ははごろろの庭～子供服は輪廻です～』

母／女優の悲哀と現実を歌に乗せる「ママさんコーラス演劇」。

劇場が、おさがり服を介した共有空間になる。彼女たちの日常のすべてが演劇になる。



作・演出：菊川朝子

出演：稲毛礼子、榎本純子、太田みち、菊池ゆみこ、高橋美貴、高村志穂、野村沙月、原田優理子、由 かほる、菊川朝子

日程：

2025年10月25日（土）～10月26日（日）

会場：東京芸術劇場 シアターウエスト

うたうははごろろは、母となった女優たちが2017年に結成したサークルです。子どものおむつ替えをしながら、つい口ずさんだオリジナルのうた。ひとりごとのようなそれを出発点に、産後ハイ、イヤイヤ期、自我の芽生えといった育児にまつわる歌が、「ママさんコーラス演劇」となることで、歌い手・聴き手それぞれの現実と重なります。

子どもの入場チケットは〈おさがり服〉です。持ち込まれたおさがり服は場内に設置された子供服のフリーマーケットゾーンに追加され、ほかの親子連れ来場者が持ち帰ることができます。子育てが輪廻し流転する様子を、〈おさがり服〉を介して共有する場となります。

「秋の隕石」で発表する本作は、団体初の劇場公演です。母となり演劇との向き合い方を模索する中で、稽古も本番中も子どもたちと大人たちが共にいられる、インクルーシブな創作現場が追求されてきました。出演者の子どもと観客の子どもの泣く・叫ぶ・走る、そこに女性たちの自意識が入り乱れ、劇場空間に混沌が生まれます。そのすべてが演劇であり、その演劇は彼女たちが送る日常そのものなのです。

上演言語：日本語

字幕言語：日本語・英語オープン字幕

上演時間：90分

<チケット情報>

発売日：一般発売 8月7日（木）～

チケット料金：【全席自由（整理番号付き）・税込み】

一般：2,000円

U29：1,000円

U18：1,000円

同伴子ども：無料（子供服は輪廻システム*）

障害者割引：一般料金から10%引き

*子供服は輪廻システム

子供服1着寄付につき、同伴の子ども1人無料！

寄付いただいた子供服は、会場内の「子供服は輪廻ですフリーマーケット」で交換できます。

- ・寄付できる子供服＝お友達にあげられるおさがり服
- ・ひどいシミ・汚れのあるもの、使用済の下着肌着はご遠慮ください。
- ・記名があってもOK！気になる方はカットしてお持ちください。

開演	10.25 Sat	10.26 Sun
11:00		▲◇
14:00	▲◇	▲◇

<受付開始・ロビー開場は開演の30分前>

▲＝リラックス・パフォーマンス（p47参照）

◇＝舞台手話通訳

※開演から30分間「子供服は輪廻ですフリーマーケット」開催

※本編は開演30分後より開始

注意事項：

- ※0～12歳の子どものみでの入場はできません。保護者と一緒にご来場ください。
- ※同伴子どもチケットの年齢上限はありません。保護者同伴・子供服寄付があれば無料となります。
- ※本公演はお子様と一緒に鑑賞いただけます。
- ・客席内にキッズスペース（栈敷席）あり
- ・上演中に動いたり、泣いたり、喋ったりしてもOK
- ・途中入退場自由
- ・見守りスタッフ常駐
- ・ベビーカー置き場あり
- ・ロビーにオムツ替え・授乳スペースあり
- ※同伴子どもチケットはPeatixでのみ取扱い。お子様と来場される方はPeatixよりチケットをご予約ください。
- ※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。

<鑑賞サポート>

- バリアフリー日本語対応：なし
- ヒアリングループ：あり
- 音声ガイド：なし
- 舞台手話通訳：あり
- 託児：あり
- 車いす席：あり

プロフィール

うたうははごころ／Utau-Hahagokoro

うたうははごころは、女優たちが出産し母となり、母業界の摩訶不思議に直面。「これを演劇に！」と集まってできた演劇サークル。育児中の愛や悲しみや願望や疲労をコーラスにした、オリジナルソング『愛の育児讃歌』を、女性たちの自意識がぶつかり合う「ママさんコーラスの発表会」としてお送りするママさんコーラス演劇。稽古も本番も子どもたちと一緒に。子どもが泣く叫ぶ走る登るその全てがパフォーマンス。

Web: <http://utauhahagokoro.com/>

菊川朝子／Asako Kikukawa

鳥取県出身。2000年より俳優活動開始。故林広志プロデュースをはじめ五反田団、ハイバイなど多くの劇団に出演しながら、2004年より自身での執筆、演出、作曲、振付活動を開始。演劇における「女性」の存在への違和感から、より主体的に誠実に「女性」を表現することを目指す演劇ユニット「Hula-Hooper」、ライブハウスで音楽と演劇の境界線確かめる「部活動の『鱈。』」など、既存の枠組みへの疑問を投げかけ、越境、融合した新しい舞台表現を生み出し続けている。2016年出産後も、子どもと共に出演や演出業務を継続。子どもと共に創作することの困難に向かい合いながら、2017年、志を同じくする母俳優たちを集め「うたうははごころ」を結成。現在は鳥取県に拠点をもち、子どもと共に全国を行き来しながら、創作活動を行っている。



スタッフ

- 舞台美術：合同会社およぐひと
- 音楽監修：川瀬浩介
- 舞台手話通訳：米内山陽子

<舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」>

- 制作：加藤七穂、河崎正太郎
- プロデューサー：半澤裕彦

詳細は[こちら](#)

11 シャヴィエ・ボベス 『やがて忘れてしまうもの』

小さくささやかな〈物〉たちが、感情・歴史・時代の大きな物語を語り出す。
親密な空間で紡がれる記憶の旅



© Alvaro_Prats

作・演出：シャヴィエ・ボベス
出演：フランチェスコ・シノーポリ

日程：
2025年10月28日(火)～11月3日(月・祝)
会場：東京芸術劇場 シアターウエスト ほか

<山口遥子キュレーション>

シャヴィエ・ボベスは、ドキュメンタリー・オブジェクトシアターと呼ばれる手法を用いるアーティストです。20世紀後半のスペインの歴史を扱うこの作品では、日常に密着した小さくてささやかな、すぐに忘れてしまいそうな物（オブジェクト）、たとえばキーホルダー、古い家族写真、絵葉書、コイン、昔の雑誌などが、過去の「生き残り」として語りだします。膨大な小さな物たちを手品師のように次々に繰り出し、日常の細かな、もしくはとるにたらないディテールを洪水のように想起させ、その向こうに深い感情や大きな時代のうねりを表象し、魅惑的な物語が展開されます。

1回の上演の観客は5人限定。親密なサロンのような空間で、小さなテーブルでクローズアップされた感覚的体験の力強い一連の出来事が、古い記憶を呼び起こし、新しい記憶を生み出します。まるで手品師のように、シャヴィエ・ボベスは過去と未来の両方を操ります。

上演言語：ノンバーバル

上演時間：上演60分＋ミニトーク15分 計75分

<チケット情報>

発売日：一般発売 8月7日（木）～

チケット料金：【税込み】

一般：6,000円

U29：3,000円

U18：1,000円

障害者割引：一般料金から10%引き

開演	10.28 Tue	10.29 Wed	10.30 Thu	10.31 Fri	11.1 Sat	11.2 Sun	11.3 Mon
12:00	●	●	●	●	●	●	●
16:00	●	●	●	●	●	●	●
19:00	●	●	●	●	●	●	●

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：なし

ヒアリングループ：なし

音声ガイド：なし

託児：あり（託児型ワークショップ

は10/31～11/3のみ）

車いす席：あり

<開場は開演の 15分前>

注意事項：

※途中入場不可。

※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。

プロフィール

シャヴィエ・ボベス／Xavier Bobés

1977年バルセロナ、スペイン生まれの舞台芸術作家。独学で活動を始め、日常的な物の詩情に魅せられ、20年間に渡りあらゆる種類の日用品を使って探究を続けている。

『やがて忘れてしまうもの』は2015年の初演以来、世界で1400回を超える上演を重ね、その繊細で驚きに満ちた世界観は各国メディアから高い評価を受けており、今回が日本初演となる。

シャヴィエは演出家、オブジェクトシアター指導者として、他のアーティストや劇団とも協働している。また2008年からは、フェスティバル、学校やその他の機関において、オブジェクトシアターのワークショップを行っている。

その活動の核心は、一見平凡に見えるオブジェクトの内に潜む象徴的内実を掘り下げていくことにあ
る。創作・実験・教育の三軸を通じてその探究を続けている。



スタッフ

制作：シャヴィエ・ボベス

<舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」>

オブジェクトシアター キュレーター：山口遥子

プログラムコーディネーター：大野洋子（ACC）、小森あや

プロデューサー：中原信貴

共同製作：TNTフェスティバルーテラッサ・ノーベス・テンデンシーズ

協力：ラニマル・アレスクイーナ

※10月18日（土）

山口遥子キュレーターによる「現代オブジェクトシアターへのクイックガイド」レクチャーあり(p45)

詳細は[こちら](#)

12 〔関田育子〕『under take』

「広角レンズの演劇」を掲げる気鋭カンパニーに、「秋の隕石」は新作を委嘱する。
舞台機構を露わにした劇場空間に、わたしたちの生と状況の手触りが投影される。



『雁渡』（2023）撮影：齋藤さおり

クリエーションメンバー：

石川朝日、小久保悠人、小菜美、関田育子、中條 玲、土屋 光、富高有紗、長田 遼、野田帰里、林 純也、半澤裕彦、星 和也、増田祥基、森山千代、横山媛香、吉田 萌 ほか

日程：

2025年10月31日（金）～11月3日（月・祝）

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

〔関田育子〕は関田育子が代表を務める演劇団体です。2019年に設立され「広角レンズの演劇」を標榜しています。これは観客に視線や距離への新鮮な感覚をもたらすために、劇場空間がもつ構造、その中にある壁や床、俳優の身体も含めたあらゆる要素を、等価とみなして創作に取り組む方法論です。参加メンバーひとりひとりが独立した個人として集まりながら、セクションを横断して参加者全員がクリエーションに積極的に携わることを重視するのも、カンパニーの重要な特徴です。「秋の隕石2025東京」はその初の作品委嘱先に〔関田育子〕を選びました。

独特な創作姿勢に基づいて生まれるかれらの作品が、観客にとって、これまでになかった新しい知覚を得て、ひいては日常生活にある当然を新しくとらえるチャンスになるだろうと確信しているからです。

作品のタイトルは、本来の意味の一つ〈引き受ける〉と、〈床下など劇場空間の中で隠されている場所をあらわにする〉の二つの意味を含んでいます。

この新作創作にあたって「この空間で演劇作品を創作するために必要な、新たな空間理解の視座と身体表現の在り方を共に思考していただけるクリエーションメンバーおよび出演者」を公募し、2名が選出されています。

上演言語：日本語

字幕言語：日本語・英語オープン字幕

上演時間：60～90分（予定）

<チケット情報>

発売日：一般発売 8月7日（木）～

チケット料金：

【全席自由（整理番号付き）・税込み】

一般：4,000円

U29：2,000円

U18：1,000円

障害者割引：一般料金から10%引き

注意事項：

※椅子の席と座布団の席があり、当日入場順にお選びいただきます。

※未就学児入場不可

※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。

開演	10.31 Fri	11.1 Sat	11.2 Sun	11.3 Mon
12:00				★
13:00			★	
16:30				●
18:00		★		
19:00	★		★	

<開場は開演の30分前>

★＝終演後に30分程度のアフタートークを予定

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：なし

ヒアリンググループ：あり

音声ガイド：なし

託児：あり

車いす席：あり

プロフィール

〔関田育子〕／SEKITA IKUKO

2019年に演劇ユニット〔関田育子〕として団体を設立。

俳優の身体と劇場の壁や床が、観客にとって等価に見える“広角レンズの演劇”を提唱し、その実践として演劇作品の創作を行っている。

2023年『micro wave』で「かながわ短編演劇アワード2023」大賞・観客賞を同時受賞。

Web: <https://www.sekitaikuko.com/>

**出演**

石川朝日、小久保悠人、小菜美、長田 遼、野田帰里、林 純也、星 和也、横山媛香、吉田 萌

スタッフ

戯曲・構成：関田育子

音響：土屋 光

演出助手：富高有紗、森山千代

宣伝美術：松田洋和

制作：増田祥基

<舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」>

制作：中條 玲

プロデューサー：半澤裕彦

詳細は [こちら](#)

13 芸術オータムセレクション

ダミアン・ジャレ × 名和晃平 『Planet[wanderer]』

鬼才の振付家 ダミアン・ジャレと、京都発の彫刻家 名和晃平によるコラボレーション作品



© Rahi Rezvani

コンセプト・振付：ダミアン・ジャレ

コンセプト・舞台美術：名和晃平

出演：ショーン・アハーン、エミリオス・アラ
ポグル、カリマ・エル・アムラニ、フランチェ
スコ・フェラーリ、ヴィンソン・フレイリー、
クリスティーナ・ギエブ、アストリッド・スウ
イーニー、湯浅永麻

日程：

2025年11月1日（土）～11月3日（月・祝）

会場：東京芸術劇場 プレイハウス

世界で脚光を浴びるフランス系ベルギー人の振付家ダミアン・ジャレと、国際的評価の高い彫刻家名和晃平による、『VESSEL』に続く舞台作品が、いよいよ日本初上演。継続的にタッグを組み、ダンスや彫刻の領域を超えた表現を生み出す彼らのパフォーマンスをお見逃しなく。

上演言語：ノンバーバル

上演時間：60分

<チケット情報>

発売日：発売中

チケット料金：【全席指定・税込み】

S席：7,500円

A席：6,500円

サイドシート：5,000円

29歳以下（A席）：5,500円

高校生以下：1,000円

注意事項：

※未就学児入場不可、中学生以上推奨。

※29歳以下、高校生以下のチケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて
前売のみ取扱い（枚数限定・公演当日要証明書）。

※その他の注意事項はp51のチケット情報ページをご確認ください。

開演	11.1 Sat	11.2 Sun	11.3 Mon
15:00	●	●	◎

<開場は開演の30分前>

◎＝見えない・見えにくいの方のための「音
声ガイド（タッチツアー付き）」を実施い
たします。（要予約）

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：なし

ヒアリングループ：あり

音声ガイド：あり

託児：あり

車いす席：あり

プロフィール

ダミアン・ジャレ／Damien Jalet

振付家・ダンサー。ダンスをはじめ、視覚芸術、音楽、映画、舞台、ファッションなど、その活動は多岐にわたる。名和晃平との協働作品に、『VESSEL』（2016年）、映像作品『Mist』（2021年）、『Planet[wanderer]』（2021年初演）がある。近作では、2023年11月にアーティストのJR、作曲家トーマ・バンガルテルとのコラボレーションにより、パリ・オペラ座のファサード足場を舞台に、プリンシパルダンサーのアマンディーヌ・アルピッソンをはじめとする154人のダンサーが踊る『Chiroptera』を創作。2024年9月には、名和晃平と再びコラボレーションし、THEATER 010（福岡）にて、トーマ・バンガルテルの楽曲による『Mirage [transitory]』を発表。これは、2025年5月にスイスで初演された、ジュネーブ大劇場バレエ団の大舞台と16名の出演者のための創作の予備的作品となった。映画では、ルカ・グアダニーノ監督によるリメイク版『サスベリア』（2018年）、ポール・トーマス・アンダーソン監督『ANIMA』（2019年）、ジャック・オーディアール監督『エミリア・ペレス』（2024年）にて振付を担当。2022年、フランス芸術文化勲章オフィシエ章を受章。



© Rahi Rezvani

名和晃平／Kohei Nawa

彫刻家。1975年大阪府生まれ。京都を拠点に活動。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。京都芸術大学教授。2011年東京都現代美術館で個展「名和晃平-シンセシス」開催。2017年、ポンピドゥー・センター・メッセで開催された「ジャパノラマ」展に参加。2018年7月から2019年2月にかけて、パリのルーヴル美術館ピラミッドにて、日仏合同プロジェクト「ジャポニスム2018」公式企画のひとつとして、彫刻作品《Throne》が展示された。2023年、フランス・セヌ川川のセガン島に高さ25mの屋外彫刻作品《Ether (Equality)》を恒久設置。



© Michael Somoroff

スタッフ

音楽：ティム・ヘッカー

照明：吉本有輝子

衣装：スルリ・レヒト

サウンド・デザイン・コラボレーション：グザビエ・ジャコ

振付アシスタント：アレクサンドラ・ホアン・ジルベール

Outside Eye：カタリナ・ナヴァレテ・エルナンデス

再製作（2023年）：ブルターニュ国立劇場、国立演劇センター

製作（2021年）：パリ国立シャイヨー劇場

共同製作：東京芸術劇場、ロームシアター京都、パリ国立シャイヨー劇場（フランス）、シャルルロワ・ダンス（ベルギー）、Sandwich Inc.（日本）、ブルターニュ国立劇場（フランス）、ザンクト・ペルテン祝祭劇場（オーストリア）、ルーアン・ノルマンディー・オペラ座（フランス）、ハンブルグ・カンブナーゲル劇場（ドイツ）、ジュネーブ大劇場バレエ（スイス）、ナーゲルフス・スキア・プロダクション（ノルウェイ）

特別協力：株式会社グランマール、株式会社マツシマホールディングス

感謝：テオ・カシアーニ、ブラープダー・ユン、ディディエ・デジャン、ファビエンヌ・オーカン

FEDORA-ヴァン クリーフ&アーベル バレエ賞ノミネート（2020年）

欧州連合（EU）クリエイティブ・ヨーロッパ・プログラムによる共同出資

協力：京都芸術大学 Ultra_Sandwich#14 #15 #16 #17、京都大学 竹中研究室

共同招聘：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス



詳細は [こちら](#)

14 花形 槇『エルゴノミクス胚・プロトセル』

人工物や技術を〈使う〉のではなく、それそのものに〈成る〉身体、その揺らぎと境界線。劇場空間での身体認識をアップデートするための公開実験



アーティスト：花形 槇

日程：

2025年11月1日（土）～11月3日（月・祝）

会場：東京芸術劇場 アトリエウエスト

ウェアラブルデバイスの研究から出発し、パフォーマンス、メディアアート、現代美術などの領域で活動する花形槇。タイトルに含まれるエルゴノミクスとは、機器や環境を人間の身体にとって最適な形へデザインしていくという設計思想です。本作で花形は、技術や人間が互いに対して「適応しようと揺らぎ続ける境界的な身体」を持つことに着目しました。人間が「人工物や技術を使用する」構図を反転させ、自らが「技術に対して発生する」事態を引き起こそうとしています。

花形を含む出演者は、花形の進める実験の被験者となります。装着したヘッドマウントディスプレイを通じて被験者は、自身を撮影した映像を見ており、そこで自身のとるポーズはリアルタイムでAIによって〈椅子〉などの図像に変換され続けます。より〈椅子〉らしくあろうとして微細に姿勢を変えることで、身体は痙攣的に踊らされていく。この体験を経ると、日常に戻っても例えば〈腕〉は〈椅子の背もたれ〉を内在したものに变性してしまう、と花形は言います。VRや義肢の専門家と協働し、まさに観客が座っている〈椅子〉を起点に、劇場内の環境および身体に対する認識を塗り替えようとする意欲作です。

今回の展示と上演は、2026年度以降に予定している本公演に向けた公開実験となります。

パフォーマンス：ノンバーバル（一部日本語・英語使用の可能性あり）

字幕言語：未定

上演時間：未定

公演スケジュール：

11月1日（土）

11月2日（日）

11月3日（月・祝）

※開催時間は決定次第、公式WEBサイト等で告知いたします。

<チケット情報>

未定

<鑑賞サポート>

バリアフリー日本語対応：未定

ヒアリングループ：なし

音声ガイド：なし

託児：あり

車いす席：あり

プロフィール

花形 慎／Shin Hanagata

1995年東京都生まれ。パフォーマンス、メディアアート、現代美術などの領域で活動。テクノロジーに加速する資本主義社会において「私」であること、「人間」であることが揺らぐリアリティのもと、通信システム、ウェアラブルデバイス、義肢装具といった身体と世界とを関係づけるテクノロジーに着目し、現代における〈人間性の捻転〉を試みる。



© Takuto Ohta

スタッフ

エンジニア：JACKSON kaki、小林篤矢

＜舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」＞

制作：加藤七穂、河崎正太郎

プロデューサー：半澤裕彦

詳細は[こちら](#)

アリエル・ドロン

15 「オブジェクトシアター ワークショップ／プロフェッショナル編」

16 「オブジェクトシアター ワークショップ／実験体験編」

オブジェクトシアターの若手スターによる、プロフェッショナル向けと一般向けの
〈ものを動かす〉ワークショップ



© Anaël Resnick

「オブジェクトシアター ワークショップ／ プロフェッショナル編」

2025年10月28日（火）～11月1日（土）
各日 10:30～16:30（全5回）

成果発表：2025年11月1日（土）
18:00～20:00

「オブジェクトシアター ワークショップ／ 実験体験編」

2025年11月3日（月・祝）13:00～16:00

会場：東京芸術劇場 シアターウエスト

<山口遥子キュレーション>

2024年下北沢国際人形劇祭に登場し、注目を集めたアリエル・ドロンを迎え、ワークショップを行います。ドロンは物を動かす卓越した技術と鋭い社会性を備えた作品を手がける、オブジェクトシアターにおける若手スター的存在です。今回「秋の隕石」ではドロンによるプロフェッショナル向けと、1日限定の一般の方向けの2種類のワークショップを開催します。

プロフェッショナル編は、日常の身近な物、その人らしいユニークな物、あるいは自分が手がけているプロジェクトに携わるアイテム、インスピレーションを感じ、探求したい物など、さまざまなオブジェクトを参加者に持参してもらい行います。

ソロ、またはグループでの実践的な練習を通して、参加者はいろいろな物の動かし方を体験し、物に命を徐々に吹き込み、上演においてその力を発揮する新しい方法を発見していきます。舞台上でオブジェクトを見て、演じて、向き合い、遊ぶことで、たくさんのツールを受け取り、舞台上のオブジェクトの使い方に対する新たなアプローチを自ら生み出せるようになります。こういったチャレンジを通して、物、そしておそらく人間に対する認識も変化していくでしょう。最終日には、アリエル・ドロン氏によるプレゼンテーションを含む成果発表が行われます。

子どもから大人までご参加いただける実験体験編は、日常のありふれた物が、目の前でまるで生きているかのように動き出す楽しい体験ができます。

ファシリテーター：アリエル・ドロン

使用言語：英語（日本語逐次通訳あり）

<鑑賞サポート>（プロフェッショナル編・実験体験編 共通）

バリアフリー日本語対応：なし

ヒアリンググループ：なし

音声ガイド：なし

託児：あり（託児型ワークショップは10/31～11/3のみ）

車いす対応：あり

<参加方法>

○「プロフェッショナル編」

参加申込受付期間：2025年8月7日（木）～9月15日（月・祝）

募集人数：12名程度

※9月下旬までに事務局での選考の上、応募者全員に、メールにて参加の可否、詳細をお知らせします。

スケジュール：

10月28日（火） 10:30～16:30	ワークショップ①
10月29日（水） 10:30～16:30	ワークショップ②
10月30日（木） 10:30～16:30	ワークショップ③
10月31日（金） 10:30～16:30	ワークショップ④
11月1日（土） 10:30～16:30	ワークショップ⑤
11月1日（土） 18:00～20:00	成果発表

参加費（税込み）：一般：10,000円 U29：6,000円 障害者割引：一般料金から10%引き

申込みフォーム：[こちら](#)

○「プロフェッショナル編」成果発表

11月1日（土）18:00～20:00（無料・事前予約制）

観覧申し込み：[こちら](#)

○「実験体験編」

参加申込受付期間：2025年8月7日（木）～10月31日（金）

対象：14歳以上

参加費（税込み）：500円

申込みフォーム：[こちら](#)

プロフィール

アリエル・ドロン／Ariel Doron

人形遣い・演出家・パフォーマー。多くの受賞歴があり、現代の人形劇・オブジェクトシアターの第一線で活躍している。

彼の作品は、言葉を最小限に抑え、遊び心を多く取り入れることで、個人的、社会的、政治的なテーマに取り組むのが特徴である。プロジェクトごとに最も適したパペットや芸術的手法を選択し、常に使用するメディアを問い直し拡張していくこと、そして観客の「感じる」「考える」「反応する」体験を促すことを目指している。

『セサミストリート』のローカル版では人気キャラクター「エルモ」の操演と声を担当し、その他にも数多くのテレビ番組でさまざまなキャラクターを演じている。

さらに数多くの劇場や機関で演出・共同制作を行ってきたほか、マスタークラスやワークショップの講師として教育現場でも活躍している。



スタッフ

<舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」>

オブジェクトシアター キュレーター：山口遥子

プログラムコーディネーター：小森あや、大野洋子（ACC）

プロデューサー：中原信貴

※10月18日（土）

山口遥子キュレーターによる「現代オブジェクトシアターへのクイックガイド」レクチャーあり(p45)

「プロフェッショナル編」詳細は[こちら](#)

「実験体験編」詳細は[こちら](#)

17 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] × 舞台芸術祭「秋の隕石」
Future Ideations Camp Vol.7

Super Sober Shamanism : 同期・共在・模倣を演劇とテクノロジーの両岸から考える

複数の時間・空間・身体が重なる現代の感覚を手掛かりに、テクノロジーと舞台芸術の可能性を探るキャンプ。演劇の身体性とデジタル技術の融合からまだ見ぬ〈何か〉を生み出すことを企み共創する。



© Midori Kawano

ディレクター：江口正登（研究者）、ゴッドスコピオン（メディアアーティスト）、篠田千明（演劇作家、演出家、学童指導員、観光ガイド）

講師・ファシリテーター：岸 裕真（アーティスト）、JACKSON kaki（アーティスト、DJ、VJ、映像作家、グラフィックデザイナー）、中井 悠（音楽その他、東京大学副産物ラボ）、円香（現代魔女、アーティスト）、山本浩貴（小説家、デザイナー、批評家、編集者、いぬのせなか座主宰）、涌井智仁（美術家、音楽家、WHITEHOUSEディレクター・キュレーター）

日程：2025年10月1日（水）～10月12日（日）11:00～19:00頃（予定）

会場：東京芸術劇場 アトリエウエスト、ギャラリー2

アートとデジタルテクノロジーを通じて人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点であるシビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] と、舞台芸術祭「秋の隕石」の共催で実施される、短期集中型のワークショップです。演劇におけるテクノロジーの活用を学ぶとともに、演劇というメディアを専門的に探究する交流の機会を創出し、未来に向けた新たな〈演劇〉の提案を目指しています。

メディアアーティストのゴッドスコピオン、演劇作家・演出家の篠田千明、そしてパフォーマンス研究者の江口正登の3名がプログラム・ディレクターとなり、そのカリキュラムを組み立てています。招聘される講師たちはXRアーティスト、現代魔女、小説家、音楽家といったさまざまな肩書きを持ち、またいずれもきわめて横断的な活動を行なっています。参加者は5日間にわたってレクチャーやワークショップを受講したのち、約1週間のクリエーション期間を経て成果発表・展示に臨みます。

この成果発表・展示は、パフォーマンス、プレゼンテーション、VR作品の体験などさまざまな形態が取られるでしょう。テクノロジーと舞台芸術、どちらに関心を持つ参加者にとっても、それぞれが使ったことのないツール、親しんでいない思考法を用いることになります。このキャンプを通じて、参加者にも講師にももちろん観客にも未知の表現が、到来するはずです。

成果発表&成果展示（一般公開）

成果発表：10月12日（日）14:00～17:00

成果展示：10月15日（水）～10月19日（日）

各日13:00～19:00 ※最終日は17:00まで

会場：東京芸術劇場 アトリエウエスト

<チケット情報>

チケット料金：無料（予約方法の詳細は後日公開）

<鑑賞サポート>

未定

ディレクターズ・ステートメント

ご飯を作る時にradikoをかける。帰ってきてビールを空けながら配信のリアタイ待ちをする。メッシュ予報で30分後の雨雲の位置を見る。現在の日常風景は、複数化された時間・空間・身体の間から成り立っています。

私たちはテクノロジーと演劇を構成するものは複数の事象の「重ね合わせ」であると考えました。異なる存在たちが、異なるリズムと欲望を保ったままにそれぞれの時間と空間を重ね合わせる（同期・共在）、そして、模倣という行為を通じて、ひとつの身体と人格にもうひとつ（あるいはもっと多く）のそれらを重ね合わせること。テクノロジーと演劇の根源をなす重ね合わせの作用をさらに重ね合わせることによって、両者をどのように再定義し、増幅し、増殖させていくことができるのでしょうか？

テクノロジーと演劇について考えるためには、何はともあれまずは手や身体を動かしてみることが大事です。本プログラムでは、料理に用いるピーラーやアニサキス検知用ライト（＝ブラックライト）、ピピッとコンロのような、直感的に操作できる道具を用意します。参加者はこれらを「手に取って触れ」「実際に試す」ことで、AI/XRといったデジタルエンボディメント、サウンドデザイン、テキスト操作など、上演にまつわる諸技術に精通した講師たちとともに、その使い方を学びます。そしてキャンプ内でチームを組み、クリエーション期間を通して上演／展示作品の制作に取り組みます。

新しいテクノロジーのまとう、どこか魔術的な雰囲気は、演劇の儀礼的な性格、演じることのシャーマニズム的な性格を再び呼び起こすでしょう。しかしそれは、陶酔の熱狂からクールに身をかわす、きわめて素面（シラフ）のシャーマニズムであることでしょう。

江口正登、ゴッドスコーピオン、篠田千明

<参加方法>

参加申込受付期間：2025年7月23日（水）～8月31日（日）

定員：20名程度 ※応募内容による選考を行います。

参加費：無料

カリキュラム・応募要項の詳細は[CCBTのWebサイト](#)へ

プロフィール

江口正登／Masato Eguchi

研究者。演劇研究／パフォーマンス研究／表象文化論。ニューヨーク大学ティッシュ芸術学部客員研究員、立教大学現代心理学部助教、合同会社syuz'genなどを経て、現在、立教大学現代心理学部および跡見学園女子大学文学部で兼任講師。研究上の主要な関心は、第二次大戦後のアメリカ合衆国における〈パフォーマンス的転回〉を歴史的・理論的に広く検討すること。俳優としての出演作にチェルフィッチュ『三月の5日間』（2004年）、「インダハウス・プロジェクト」no.1『三月の5日間 [オリジナル版]』（2018年）など。



ゴッドスコーピオン／God Scorpion

メディアアーティスト。主に形而上学や宗教哲学、テクノロジーを題材に、時間軸と空間軸のフレームの変化をテーマにした作品を制作。作品は都市や屋外、屋内、身体といった様々な空間で展開され、XR技術を利用したマルチメディア、横断的な作品を手がける。XRプラットフォーム「STYLY」を提供する株式会社STYLYのファウンダーメンバー／シニアアートディレクター。



篠田千明／Chiharu Shinoda

演劇作家、演出家、観光ガイド、学童指導員。複数の環世界を聞き分けて空間に配置し、閉じずに整えるのが得意。2004年に多摩美術大学の同級生と「快快」を立ち上げ、2012年に脱退するまで、中心メンバーとして主に演出、脚本、企画を手がける。その後バンコクに移動し、ソロ活動が続ける。2020年3月に日本に帰国、練馬を拠点とする。2020年山口情報芸術センター〔YCAM〕と共同でオンラインパフォーマンス『5x5x5本足の椅子』製作。2022年には東京の民家を舞台に『no plan in duty』を演出。美学校で『劇のやめ方』という講座を担当している。



© Graham Mayer

シビック・クリエイティブ・ベース東京〔CCBT〕

アートとデジタルテクノロジーを通じて、人々の創造性を社会に発揮する（シビック・クリエイティブ）ための活動拠点。創作スペース、スタジオ等を備え、様々なプログラムを通じて、クリエイティブ×テクノロジーで東京をより良い都市に変える原動力となることを目指す。

Web: <https://ccbt.rekibun.or.jp/>

スタッフ

プログラム・ディレクション：伊藤隆之（CCBT）

ドラマトウルグ：木村悠介（&Co.）、羽鳥嘉郎（秋の隕石）

プログラム・マネジメント：伊藤 遥（CCBT）、鹿島萌子、寺田 凜（秋の隕石）、半澤裕彦（秋の隕石）

テクニカル・ディレクション：三浦大輝（arsaffix）

テクニカル・スタッフ：イトウユウヤ（arsaffix）、稲田俊平（CCBT）、乙戸将司（CCBT）、平瀬ミキ（arsaffix）

運営：一般社団法人オノコロ

企画制作：シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]、舞台芸術祭「秋の隕石」

主催：東京都、シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]（公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京）、東京舞台芸術祭実行委員会〔東京都、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）〕

CIVIC CREATIVE BASE TOKYO

シビック・クリエイティブ・ベース東京

詳細は[こちら](#)

18 次はどこ？みて、はなすレジデンス

世界の舞台芸術の創作に関わる若手を招聘する、未来に向けた発見と交流のためのプログラム

アジアを中心に、世界各地からアーティストをはじめとする舞台芸術の創作に携わる若手を「秋の隕石」に招聘します。約10日間にわたり「秋の隕石」演目を中心に鑑賞し、作品に対する感想や解釈を語り合うことを通してお互いを知り、交流を深めます。メンターを迎えて作品の文脈や背景を知り新たな視点を得る機会や、国内の舞台芸術関係者との交流、東京近郊の文化施設等の訪問、滞在中に得た気づきや思考を共有する機会も設けます。

メンバーたちが普段の活動範囲から一步外に出ることで、新しい出会いやアイデアを得て、率直な意見交換を行い、国境を越えて相互に助け合い、刺激し合い、いずれ協働できるような関係を築くことを期待しています。同時に、「秋の隕石」として、次世代の問題意識や視点を今後のフェスティバルづくりの参考にする機会としていきます。

19 海外プレゼンター招聘

世界の劇場やフェスティバルとのネットワークを更新するための交流・意見交換プログラム

世界の様々なフェスティバルや劇場、アーティストなどと接続し、「秋の隕石」のネットワークを更新するため、劇場やフェスティバルでプログラミングを担当するドラマトウルグやプログラマー、フリーランスのキュレーターなどを招聘します。今後の活躍が特に期待される次世代を主な対象とし、「秋の隕石」のプログラムの視察・体験と、情報・意見交換や交流を行います。持続的かつ双方向の関係性を築き、将来の協働へつなげます。さらに、さまざまな国際舞台芸術祭に精通しているジャーナリストや批評家も招きます。参加メンバーのプレゼンテーションの場もカジュアルに設定する予定です。

20 コンセプトブック「文脈たちの宴」

舞台芸術祭「秋の隕石」の〈隕石み〉により深くアクセスするための手引き

「秋の隕石」アーティスティック・ディレクターの岡田利規は、この舞台芸術祭を「文脈たちの宴」と表現しています。ここに接触した人々がより多様な文脈により深くアクセスするのを助けるため、「秋の隕石」はこの読みものを紙と電子版で無料配布します。特に上演プログラム各演目について、論考や対談などの形で背景や関連する事項を記述しています。日本語圏で初めて紹介されるアーティストのインタビューをはじめ、貴重な原稿が満載です。



21 山口遥子 レクチャー

『現代オブジェクトシアターへのクイックガイド』

オブジェクトシアターの設立の背景や発展の過程、主要動向や現在の担い手を紹介する
レクチャー

オブジェクトシアターとは、1980年代にヨーロッパを中心に始まり、現在ではアジアを含む国際的な広がりを見せる注目のジャンルです。

「秋の隕石2025東京」は、このジャンルの研究の第一人者で昨年下北沢国際人形劇祭を立ち上げた山口遥子氏に、一部演目のキュレーションを依頼しました。オブジェクトシアターの成立の背景と発展の過程、現在の主要な動向について解説するほか、今回招聘するハンダ・ゴテ・リサーチ&ディベロップメント、シャヴィエ・ボベス、アリエル・ドロンといったアーティストたちが、オブジェクトシアター界で今どのような位置づけにあるのかを紹介します。

講師：山口遥子

日程：10月18日（土）13:00～

会場：東京芸術劇場 シンフォニースペース

時間：70分（予定）

使用言語：日本語（英語逐次通訳あり）

<チケット情報>

発売日：8月7日（木）～

チケット料金：500円

<参加方法>

申込みフォーム：[こちら](#)

プロフィール

山口遥子／Yoko Yamaguchi

人形劇研究者。博士（美術）。現在、JSPS海外特別研究員としてドレスデン国立美術館に在籍し、ヨーロッパを中心とした現代人形劇論、及び日本現代人形劇史を研究。人形劇分野の国際的活動を支援するNPO法人Deku Art Forum 理事長。企画統括を務める第二回下北沢国際人形劇祭は、2026年2月17日～23日に開催予定。



©Yuri Manabe

詳細は[こちら](#)

22 ウェルカムぎんが



Photo by 中川達彦

日程：2025年10月1日（水）～11月3日（月・祝）

※各日のオープン時間については公式WEBサイトをご確認ください。

会場：東京芸術劇場 劇場前広場

東京芸術劇場前に生まれる広場「ウェルカムぎんが」。ふらりと立ち寄って当日券情報などを入手できる案内所であり、劇場の飲食店と「秋の隕石」とのコラボレーションフード／ドリンクが楽しめる休憩所です。この空間は日々変化していきます。ベンチやテーブルはフレキシブルに組み替えられます。ベビーカー連れなど、どのような方が立ち寄ってもストレスなく過ごせる場所です。DJもやる現代美術家、植物療法士、けん玉プレイヤーなど多種多様なメンバーがウェルカムします。

企画進行：奥村圭二郎、今井さつき、磯野玲奈

※イベント、フード、参加店舗、メンバーについては、決まり次第発表予定

昨年度の様子



詳細は [こちら](#)

23 アクセシビリティ・鑑賞サポート

どなたにも「秋の隕石」を楽しんでいただけるよう、鑑賞サポートを充実させます。字幕や音声ガイドなどの情報保障をし、見守りスタッフによるサポート体制を敷きます。託児サービスを実施します。子どもたちがアートにふれられる「託児型ワークショップ」もあります。詳細は[こちら](#)



アクセシビリティ・鑑賞サポート

せりふのある上演プログラムには、日本語と英語のオープン字幕が付いています。演目によっては、英語以外の言語にも対応します。聞こえない・聞こえにくいお客様のためには、バリアフリー日本語、ヒアリングループ（磁気ループ）なども用意しています。

見えない・見えにくいお客様には、音声ガイドを用意するなどして、ウェルカム体制を整えます。車いすのお客様のための客席は、各公演用意いたします。介助犬・聴導犬・盲導犬の同伴のもとご鑑賞いただけます。

リラックス・パフォーマンス

リラックス・パフォーマンスとは、音や光の刺激に敏感な方、小さなお子さま、発達障害の方などにも安心して観劇を楽しんでいただけるような舞台芸術の上演のやり方です。

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」では、上演中の客席を完全に暗くしない、音響・照明の効果をやわらかいものにする、といった要素の全てもしくは一部をみだした、小さなお子さまともいっしょにお楽しみいただける上演、声を出したり体を動かしたりしながら観劇することや途中での入退場を咎める雰囲気を持たない上演を、リラックス・パフォーマンス、と呼びます。

静かに大人しく座っていることを強制されるような空気が苦手、など、舞台を鑑賞することへの不安をお持ちの方へ。ぜひ、心配無用でリラックス・パフォーマンスにお越しください。イヤーマフ、筆談ボードなどのサポートアイテムも準備してお待ちしています。

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」では、以下の上演プログラムにおいてリラックス・パフォーマンスを実施します。

◎全公演がリラックス・パフォーマンスである上演プログラム

岡田利規 ダンス作品兼演劇作品『ダンスの審査員のダンス』(P11)

うたうははごころ『劇場版☆歌え！踊れ！育て！ははごころの庭～子供服は輪廻です～』(P29)

◎リラックス・パフォーマンスの回のある上演プログラム

Shakespeare's Wild Sisters Group × 庭劇団ペニノ『誠實浴池 せいじつよくじょう』(P16)

音楽イベントの性格の強いユーバランスは、舞台芸術の演目ではないので、リラックス・パフォーマンスとは名乗りませんが、どなたでも自由にリラックスしてお楽しみいただけるプログラムです！(P27)

託児

◎託児サービス

生後3ヵ月～小学校入学前までのお子さまが対象です。公演日の1週間前までのご予約をお願いします。

*有料です・定員あり

◎託児型ワークショップ『こどもあそびシアター』

4歳以上のお子さまが対象です。予約制です。

*料金は2時間で500円（延長可）です・定員あり

*10/28～10/30は実施なし

24 池袋まち歩きツアー

オープニングプログラム『現実の別の姿／別の現実の姿』(P9) の鑑賞と池袋のまち歩きを行うツアーを10月1日（水）に開催する予定です。

会場（アクセス）

東京芸術劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口直結。



GLOBAL RING THEATRE 〈池袋西口公園野外劇場〉

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-26

池袋駅（JR線、東武東上線、西武池袋線、東京メトロ副都心線、丸ノ内線、有楽町線）2a出口より徒歩1分

チケット情報 <チケット料金・取扱一覧>

プログラム名	席種	料金				セット券	チケット取扱						
		一般		U29	U18 高校生以下		隕石	芸劇	ぴあ	e+	ローソン	その他	
1 オープニングプログラム 『現実の別の姿／別の現実の姿』	野外	無料				×	予約不要						
2 岡田利規 ダンス作品兼演劇作品 『ダンスの審査員のダンス』	自由席	¥5,500		¥2,800		¥1,000	○	○	○	○	○	×	
3 佐々木蔵之介ひとり芝居 『ヨナ-Jonah』 ※プレビュー公演、平日夜公演のみ	指定席	一般	※ 一般	¥5,000		¥1,000	×	×	○	○	○	○	カン フェティ
	¥9,500	¥9,000											
4 Shakespeare's Wild Sisters Group × 庭劇団ベニノ 『誠實浴池 せいじつよくじょう』	指定席	S席	A席		S席	A席	¥1,000	○	○	○	○	○	
	¥6,000	¥4,000		¥3,000	¥2,000								
5 フェイ・ドリスコル 『Weathering』	自由席	¥6,000		¥3,000		¥1,000	○	○	×	×	×	×	
6 『Mary Said What She Said』	指定席	S席	A席	サイド シート	A席のみ対象	¥1,000	×	×	○	○	○	○	カン フェティ
	¥12,000	¥9,500	¥5,000	¥9,000									
7 ハンダ・ゴテ・リサーチ&ディベロップ メント『第三の手』	自由席	¥4,500		¥2,300		¥1,000	○	○	○	○	○	×	
8 フォースド・エンタテインメント 『Signal to Noise』	自由席	¥5,500		¥2,800		¥1,000	○	○	○	○	○	○	
9 ユー・バランス	自由席 (1日券)	¥6,000		¥3,000		¥1,000	○	○	○	○	○	○	
	自由席 (2日券)	¥11,000		¥5,500		¥2,000	○	○	○	○	○	○	
10 うたうははごころ 『劇場版☆歌え！踊れ！育て！ははごころの 庭〜子供服は輪廻です〜』	自由席	¥2,000 同伴子ども：無料 (子供服は輪廻システム)		¥1,000		¥1,000	○	○	○	○	×	○	Peatix
11 シャヴィエ・ポベス 『やがて忘れてしまうもの』	自由席	¥6,000		¥3,000		¥1,000	×	○	○	○	×	×	
12 関田育子『under take』	自由席	¥4,000		¥2,000		¥1,000	○	○	○	○	×	○	
13 ダミアン・ジャレ × 名和晃平 『Planet[wanderer]』	指定席	S席	A席	サイド シート	A席のみ対象	¥1,000	×	×	○	○	○	○	カン フェティ
	¥7,500	¥6,500	¥5,000	¥5,500									
14 花形 慎 『エルゴノミクス狂・プロトセル』	自由席	未定				×	未定						
15 アリエル・ドロン「オブジェクトシア ター ワークショップ／プロフェッショナル 編」	—	¥10,000		¥6,000		—	×						フォー ム メー ラー
15 アリエル・ドロン「オブジェクトシア ター ワークショップ／プロフェッショナル 編」 成果発表	—	無料				×							Peatix
16 アリエル・ドロン「オブジェクトシアター ワークショップ／実験体験編」	—	¥500				×							Peatix
17 シビック・クリエイティブ・ベース東京[C&BT] × 舞台芸 術祭「秋の囃子」Future Ideations Camp Vol.7 Super Sober Shamanism: 同席・共在・横断を演劇とテクノロ ジーの両岸から考える 成果発表	—	無料				×							Peatix
21 山口遥子 レクチャー 『現代オブジェクトシアターへのクイックガイ ド』	—	500円				×							Peatix

*障害者割引：一般料金から10%引き



チケット情報

<チケット発売期間>

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」セット券販売

7月26日（土）10:00～7月31日（木）23:59

※舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」公式オンラインチケットでのみ取扱

対象演目の中から3演目を選択しまとめて買うと、一般料金の30%OFFの値段で買えるお得なセット券です。期間限定・数量限定・先着順での販売となります。この機会をお見逃しなく！

セット券対象演目：

- ・岡田利規 ダンス作品兼演劇作品『ダンスの審査員のダンス』
- ・Shakespeare's Wild Sisters Group × 庭劇団ペニノ『誠實浴池 せいじつよくじょう』
- ・フェイ・ドリスコル『Weathering』
- ・ハンダ・ゴテ・リサーチ&ディベロップメント『第三の手』
- ・フォースド・エンタテインメント『Signal to Noise』
- ・ユーバランス
- ・うたうははごころ『劇場版☆歌え！踊れ！育て！ははごころの庭～子供服は輪廻です～』
- ・[関田育子]『under take』

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」公式オンラインチケット先行販売

8月2日（土）10:00～8月6日（水）23:59

※舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」公式オンラインチケットでのみ取扱

一般発売

8月7日（木）10:00～

<チケット取扱> ※プログラムによって取扱プレイガイドが異なりますのでご注意ください。

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」公式オンラインチケット

<https://piagettii.s2.e-get.jp/meteo/pt/>

東京芸術劇場ボックスオフィス

- ・電話 0570-010-296

※9/5まで（土日祝日を除く10:00～17:00）、9/6以降（休館日を除く10:00～19:00）

※国際電話および一部のIP及びプリペイド式携帯電話などからはご利用いただけません。

- ・WEB <https://www.geigeki.jp/t/>

※24時間受付（メンテナンスの時間を除く）

- ・窓口

※休館中のため、窓口販売は9/6（土）より再開いたします。

※9/6以降（休館日を除く10:00～19:00）

チケットぴあ

- ・<https://w.pia.jp/t/autumnmeteorite/>
- ・セブン-イレブン

イープラス

- ・<https://eplus.jp/autumnmeteorite2025/>
- ・ファミリーマート店舗Famiポート

ローソンチケット

- ・<https://l-tike.com/autumnmeteorite/>
- ・ローソン、ミニストップ店舗 Loppi

カンフェティ

- ・<https://www.confetti-web.com/>
- ・050-3092-0051（平日10:00～17:00）

Peatix

- ・<https://autumnmeteorite-2025.peatix.com>

チケット情報

<アクセシビリティ・鑑賞サポート>

鑑賞サポートをご希望のお客様は、公式WEBサイト（[ウェルカム体制（＝来場サポートのこと）](#)）にてご確認ください（要事前申込）。

<注意事項>

- ・U29、U18、高校生以下のチケット（枚数限定）をご購入の方は公演当日に受付で証明書のご提示が必要です。確認できない場合は一般料金との差額をお支払いいただきます。
- ・障害者手帳・ミライロIDをお持ちの方は、割引料金でご鑑賞いただけます。詳細は、東京芸術劇場ボックスオフィス（0570-010-296。9/5まで土日祝除く10:00～17:00、9/6以降休館日を除く10:00～19:00）、または公式WEBサイト（ウェルカム体制（＝来場サポートのこと））にてご確認ください。
- ・車いすでのご来場のお客様は、ご案内できるスペースに限りがあるため、ご購入前に東京芸術劇場ボックスオフィスにお問い合わせください（要事前申込）。
- ・全日程でヒアリングループ（磁気ループ）を、客席の一部で作動します。（一部プログラムを除く）
- ・やむを得ぬ事情により、記載内容・公演情報等に変更が生じる場合がございます。
- ・営利目的の転売は固くお断りいたします。
- ・公演中止の場合を除き、ご予約・ご購入いただきましたチケットのキャンセル・変更は承れません。
- ・ご来場前に必ず各プログラムの注意事項と最新情報をご確認ください。
- ・各プログラム毎の注意事項は、プログラム個別ページをご確認ください。

<チケットに関するお問い合わせ>

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」チケットセンター

メール：ticket@autumnmeteorite.jp

電話：03-6812-1663（土日祝及び東京芸術劇場休館日を除く11:00～17:00）

クリエイティブ・ディレクション

「秋の隕石」ビジュアル・アイデンティティ及びデザインについて



舞台芸術祭「秋の隕石」では、フェスティバルにおけるコミュニケーションツールのクリエイティブディレクションを2019年結成のNEW Creators Club（NEW）が手がけます。「秋の隕石」という舞台芸術祭が、芸術のもつ一義的な〈現実〉を問う・揺るがすという作用を重視し、舞台芸術が〈現実〉に対して機能する文脈の変動・拡張をめざすことを受け、デザインの設計もその態度に应答し、打ち出していきます。

その第一歩として、まず「秋の隕石2025東京」のビジュアル・アイデンティティ（以下VI）を策定します。そしてそのVIから具体的に生み出されるロゴやキービジュアル等のフェスティバルにまつわる視覚表現およびデザインを、ひとつのかたちを持つ固定されたグラフィックではなく、そのビジュアルを体験する人（ユーザー）の誰もが、任意に形状を変えることのできるジェネレーター（生成システム）という手法で発表します。

「秋の隕石2025東京」のビジュアルデザインは、このジェネレーターを用いることで、そのメディア（媒体）や機会等によって常に変化します。この変化するVIという概念を、我々は「LIVE VI」と称し、ビジュアル面からもこの芸術祭のコンセプトを表現します。

NEW Creators Club メッセージ

「秋の隕石」という名前は思いがけないものだったが、力のある強い字面だと感じた。そのまま素直にロゴタイプを作ればビジュアルコミュニケーション上は十分だったが、VIシステム自体が、岡田氏が掲げる「隕石（ここになにか。慣れ親しみのあるものとは大いに異なるなにか。）」になっているべきだと考えた。そこでLive Performing Artsらしく「LIVE VI」なる概念を到来させた。「LIVE VI」とは何か。それは決まった一つの形状だけでなく、規定の動きを続けるモーションだけでもない、刻一刻と形を変えていくVIである。このVIシステムを成り立たせるため様々なセンサーやパラメーターを搭載したジェネレーター(<https://composer.autumnmeteorite.jp/>)を開発した。プリセット機能によって一般的なアセット管理の感覚で使用することもできるが、出力されるデザインには必ず乱数が使われるため二度と同じものは作ることができない。僕たちはこの「隕石」を受け入れることができるだろうか。

NEW Creators Club プロフィール

NEW Creators Clubは、さまざまな専門性と飽くなき探究心をもったメンバーが所属する複合型（フルスタック）デザイン組織です。
新たな社会・文化・環境へ挑戦する事業者のクリエイティブパートナーとして、国内外さまざまなブランディングを手掛けています。
事業の進むべき方向を明確にし、それに応じた独自のデザインシステムを定義して改革をサポートします。
また事業目的を達成するだけでなく、それを通り越して、既存の業界に強いインパクトを生み出せるようなクリエイティブを目指しています。
実現したい新たなミッションと、新たなクリエイティブを重ね合わせた先に、ビジネス・ブランドの大きな展望を示していきます。



Instagram: @new__jp X: @neeeewjp Podcast: NEW Podcasters Club
NEW Creators Club（NEW）WEBサイト (<https://www.new-creators.club/>)

クレジット

主催：東京舞台芸術祭実行委員会（東京都、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団））

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（国際芸術交流）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協賛：アサヒグループジャパン株式会社

メディアパートナー：Tokyo Art Beat

協力：豊島区、西武鉄道株式会社、東武鉄道株式会社



アサヒグループジャパン株式会社



東京舞台芸術祭実行委員会

顧問：野村 萬（公益財団法人日本芸能実演家団体協議会 会長、能楽師）

委員長：近藤誠一（元文化庁長官）

副委員長：

荻田 伍（公益財団法人東京都歴史文化財団東京芸術劇場 館長）

片岡容子（東京都生活文化局 文化振興部長）

委員：

内野 儀（学習院女子大学国際文化交流学部 教授）

崎田淳也（アサヒグループジャパン株式会社総務部 シニアマネージャー）

夏坂真澄（公益社団法人企業メセナ協議会 理事長）

久野敦子（公益財団法人セゾン文化財団 常務理事）

藤生智之（公益財団法人東京都歴史文化財団 総務部長）

渡邊裕之（東京商工会議所豊島支部 会長）

監事：山内真理（公認会計士山内真理事務所 代表）

東京舞台芸術祭実行委員会事務局

事務局長 鈴木順子*

舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」

アーティスティック・ディレクター：岡田利規

チーフ・ドラマトウルグ：山口真樹子

ドラマトウルグ：羽鳥嘉郎

アーティスティック・ディレクター補佐：関 あゆみ

チーフ・プロデューサー：武田侑子*

シニア・プロデューサー：根本晴美

プロデューサー：

半澤裕彦*

中原信貴*

寺田 凜*

吉田直美*（芸劇オータムセレクション）

辻 卓也*（芸劇オータムセレクション）

橋本奈々美*（芸劇オータムセレクション）

オブジェクトシアター キュレーター：山口遥子

テクニカルディレクター：安田武司*

テクニカルコーディネーター：中井尋央（株式会社ステージワークURAK）

チーフ・マネージャー：松谷はるな*

広報チーフ：松本花音

広報：

藤崎 悠*

山内祥子

奥村圭二郎

川崎映子*（芸劇オータムセレクション）

久保風竹*（芸劇オータムセレクション）

広報アシスタント：磯野玲奈

SNS担当：内田里奈

インバウンド担当：園田祥子

クリエイティブ・ディレクター：NEW Creators Club

アクセシビリティコーディネーター：

宮本晶子（合同会社syuz'gen）

大島尚子

三谷 淳*（芸劇オータムセレクション）

多田和代*（芸劇オータムセレクション）

票券：松尾幸亮

総務：

小林尚美*

浜田夏実

大島尚子

甲斐美奈寿

経理：

石鍋由紀子（アスタービジョン株式会社）

谷田八千代（アスタービジョン株式会社）

* = 東京芸術劇場